

越前市剣道連盟創立60周年を迎えて

平成15年度～平成25年度の歩み



越前市剣道連盟

創立60周年記念事業

《記念剣道大会》



開 会 式（来賓祝辞）



日本剣道形を演武する和田夫妻



全剣連居合を演武する西出和男



記念剣道大会 試合風景



表彰式

《記念祝賀会》



表彰を受ける山田昭榮



特別功労者表彰



日本舞踊を披露する永坂重几



出席者全員による記念撮影

越前市剣道連盟創立60周年を迎えて



越前市剣道連盟

会長 金嶋 八郎

昭和28年に県剣道連盟が発足したのに伴い、当時の武生市長であった森廣三郎氏を初代会長に迎えて武生市剣道連盟が正式に誕生し、平成15年11月に盛大に創立50周年記念式典を挙げてから、早くも10年目を迎えることになりました。

この10年を顧みますと、平成15年の創立50周年記念式典での新たな決意と連盟の更なる発展を願い、節目のスタートを切りました。そして、平成16年には、福井県剣道連盟の50周年を契機に新規事業として「福井県知事杯 福井県剣道選手権大会」を実施することになり、栄えある第1回大会を当剣道連盟が主管し、無事大役を務めました。平成18年には、市町村のいわゆる「平成の大合併」により、旧今立地区剣道連盟と旧武生市剣道連盟が合併し、今日の当連盟が設立されました。これが契機になり、各種剣道大会における会員の活躍、会員の剣道に対する取り組み方にも変化が現れ、昇段審査に挑む方が増えました。その結果、6段、7段合格者が増加し、一層、技術力の向上が図られ、また稽古の励みにもなっています。

また、女子剣道の躍進、居合道の人口拡大、若手会員の加入等もあって、一段と連盟活動も活発化しました。平成23年には、毎月第1土曜日を「大稽古会」と銘打って、定例稽古会に出席できない方もこの「大稽古会」の日は、稽古に参加し、少なくとも月に1回は剣道に親しむ機会ができ、今

では多数の会員が集う稽古会になりました。また、少年剣道の育成においては、少子化の影響等の中、剣道人口も低下を余儀なくされていますが、この「大稽古会」に合わせ平成25年の9月からジュニア強化育成に対する取り組みも行っています。

一方、当連盟の発展に貢献されてきた石黒内匠先生、谷口正儀先生、高山卓三先生、小泉宗之先生、佐々木庄一郎先生、是広昌之先生等、当連盟の礎を築かれた諸先輩会員のご逝去を悼み、改めて謹んでお悔みを申し上げます。

このような10年をたどり、会員一同が結束し今日の進展をみることができました。今、60周年を迎え、ここに記念式典等を挙げることは大きな喜びであります。

これひとえに市当局、市教育委員会、市体育協会、県剣道連盟及び関係各位のご支援ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

今後、これを契機に更なる発展を誓い、会員の皆様が、剣道の理念である剣の理法の修練による人間形成の道に向かい、「正しい剣道」を行うための自己修養と後進の指導に努力精進されますことを深く念願する次第であります。

終わりに本記念式典等の開催にあたり、ご尽力ご協力いただきました関係各位に対し厚く感謝の意を表し挨拶といたします。

目次

越前市剣道連盟創立60周年を迎えて 越前市剣道連盟 会長 金嶋八郎	1
第一章 10年間の主な出来事	
(1) 武生市剣道連盟解散と越前市剣道連盟設立の経緯	3
(2) 福井県剣道連盟の長期構想と一般財団法人化	4
(3) 越前市剣道連盟の重点目標および重点事業方針	5
(4) 武道の必修化 ― 越前市内の全中学校が「剣道」を選択	5
(5) 少年剣道に関する課題と取り組み	6
(6) 福井県知事杯「第1回福井県剣道選手権大会」を主管開催	7
(7) 昇段者・高段者の増加および女子会員の躍進	8
(8) 「木刀による剣道基本技稽古法」の制定と必修	9
(9) 新春奉納試切り大会（60回継続）	10
(10) 福井県少年少女剣道錬成武生大会（42回継続）	11・12
(11) 居合道の普及と現状	13
(12) 創立60周年記念事業	14・15
第二章 10年間の事業略年表（年度別）	
平成15年度	17
平成16年度	18
平成17年度	19
平成18年度	20
平成19年度	21
平成20年度	22
平成21年度	23
平成22年度	24
平成23年度	25
平成24年度	26
平成25年度	27
特別寄稿	
石黒内匠先生を偲ぶ	28
谷口正儀先生を偲ぶ	29
資料編	31

第一章 10年間の主な出来事

※文中の団体・個人名は敬称を略します。

(1) 武生市剣道連盟解散と越前市剣道連盟設立の経緯

武生市剣道連盟は、平成15年に剣道連盟設立50周年を迎え、半世紀の区切りとして盛大に記念事業を行った。その一つとして今も、更には将来へと継承されるべき、決意と歴史が武道館の敷地に建立された石碑に刻まれている。それは「錬気養心」の文字であり、その文字どおり「気を錬り心を養う」ことである。また、その歴史を50年史として発刊し、その足跡を記していった。

その後、平成の市町村大合併があり、武生市と今立町とが合併、平成17年10月1日に越前市として、スタートすることになった。当然、合併に伴い当連盟が所属する武生市体育協会も、平成17年10月10日に、今立町体育協会と合併し越前市体育協会として発足した。このため、当連盟および今立地区剣道連盟も、今後、越前市体育協会に所属することとなるため、両剣道連盟も合併に関し、急遽、両剣道連盟の役員による調整会議を開催して、新剣道連盟設立についての協議を行った。その結果、従来の地区剣道連盟を互いに解散し、新剣道連盟設立をすることで合意した。



記念碑建立 平成15年11月16日

そして、平成18年4月29日に（仮称）越前市剣道連盟の設立総会を開催し、満場一致の承認を得て、「越前市剣道連盟」が誕生。初代会長に金嶋八郎が選出され、以下、下記の役員も決まり、これからの越前市剣道連盟の舵取りを託されることになった。そして、組織の拡大に伴い剣道愛好家の仲間が増えていった。このような経緯をたどり、越前市剣道連盟規約（資料編掲載）の下で、旧武生市剣道連盟時代の連盟旗「錬気養心」もこのとき引き継がれ、現在に至っている。

設立時役員名簿

顧問	石黒内匠
会長	金嶋八郎
副会長	永坂重几
	山田昭榮
	藤岡文男
理事長	松本敏夫
副理事長	尾形言成
	内藤嘉昭
事務局長	宮川保則
事務局次長	堂前光夫
	内藤一俊



平成18年4月「越前市剣道連盟」が誕生
連盟旗もこれに伴い平成18年11月に再製された

事務局所在地／越前市平出2丁目3-9 武生スポーツ店内

(2) 福井県剣道連盟の長期構想と一般財団法人化

1) 福井県剣道連盟の長期構想について

福井県剣道連盟（以下「県剣連」という。）では、福井県の剣道界を取り巻く社会的環境の変化に対応すべく、概ね10年間の長期的な視野に立って事業等の取り組みをしていくことになった。平成17年度の評議員会で「福井県剣道連盟 長期構想」を提案し、了承され、策定期間を18年度内に策定完了することになった。

長期構想の策定委員会のメンバーには、越前市剣道連盟（以下「市剣連」という。）から松本敏夫が、また、ワーキンググループのメンバーには日下博幸が携わった。そして策定は目標どおり18年度末に完了し、平成19年度の評議員会に諮られて、この年から長期構想に沿った事業等の展開、推進が図られることになった。

なお、この長期構想の中で、今の任意団体から一般財団法人として、活動することが挙げられており、その法人化については平成24年度の理事会を経て評議員会で承認され、「一般財団法人 福井県剣道連盟」（平成24年6月15日登記）が誕生した。

次に長期構想の内容を紹介する。

1. 策定の趣旨

2. 剣道人口の拡大

- (1) 剣道普及
- (2) 広報活動の強化
- (3) 少年剣道における児童数の確保・拡大
- (4) 少年剣道、中学校剣道および高校剣道の連携による剣道人口の確保
- (5) 地区剣道連盟および実業団における剣道人口の確保・拡大
- (6) 女性の剣道人口の拡大

3. 選手強化

- (1) 選手強化の充実
- (2) 少年剣道段階からの選手強化
- (3) 少年剣道、中体連、高体連および一般の連携による選手強化

4. 指導者の育成

- (1) 指導者の養成
- (2) 指導者の適正配置
- (3) 審判技術の向上
- (4) 認定審判員制度の検討

5. 組織・体制の強化

- (1) 当剣道連盟の法人化
- (2) 少年剣道の統括化
- (3) 少年剣道、中体連および高体連の連携
- (4) 居合道の取組

6. 財源の確保

- (1) 二巡目国体を目指した選手強化費用等の確保
- (2) 賛助会員制度の創設
- (3) 「剣道だより」への企業広告
- (4) 審判講習会の受講料

7. 効率的な事業運営

- (1) 財務規程等の整備
- (2) 責任者としての専従事務職員の配置
- (3) インターネットの活用

8. 事業の具体化と見直し

2) 地区剣道連盟の影響について

県剣連が一般財団法人化され、長期構想の骨太の組織体制が整ったが、それまでには、いろいろと地区への影響も少なからずあった。特に財源の確保と執行体制については、地区の事務局長・理事長を集め何度も調整会議を重ね、各地区連盟の協力を得て成立に至った。

市剣連においても、今後の事業運営に大きく関わることだけに、会員からは様々な意見があった。たとえば、法人化されるまでの課題としては、県が主催する剣道大会に参加費を納めることや地区剣道連盟の分担金の見直し、県剣連の役職と評議員、理事の権限、選手強化策などであった。

しかし、このような諸課題も、法人化が実現したことに伴い、市剣連においても、着々と計画に沿った対策を執り、育成助成金、大会参加料の件、少年剣道レベルアップ教室の開催、定例稽古会のあり方など、市剣連の事業活動にも変化をもたらし、従来とは一歩大きく前進することになった。

このように、「長期構想」は、各地区連盟にさまざまな影響をもたらし、市剣連の重点目標や重点事業方針の具体的な取り組みに大きな変化を与える要因になった。

(3) 越前市剣道連盟の重点目標および重点事業方針

越前市剣道連盟の重点目標と重点事業方針は次のとおりである。(平成25年度)

○重点目標

県内各種剣道(居合道)大会での優勝および福井県知事杯剣道選手権大会出場者の入賞を目指して選手強化を図る。

○重点事業方針

1. 本連盟事業の組織強化と事業の活発な推進

- ・事業別専門委員会の活性化による組織力向上で、より充実した事業を遂行する。
- ・各地区担当理事の綿密な連絡で、各種事業への会員の参加数向上を図る。
- ・会員相互の親睦と共に、稽古に励み昇段者を輩出する。

2. 幼・少年剣道指導、育成、底辺拡大

- ・合同稽古会、交流大会を通じて少年少女剣道の育成を図る。
- ・指導者自身の資質向上のため、講習会や稽古会への積極的参加を促す。
- ・各少年団の指導者は「木刀による剣道基本技稽古法」を熟知し、正しい技の指導を図る。

3. 剣道・居合道人口の拡大

- ・市の担当課、体育協会との連携により、広く市民の中から剣道や居合道愛好者を発掘し、底辺拡大を図る。
- ・初心者を対象とした継続的な稽古会を実施する。

※月例大稽古会(毎月第1土曜日 夜8:00~9:00)

「大勢が集まって、気軽に稽古を
楽しむ日にしよう!!」

「県剣道連盟主催の講習会に参加し、
指導者自身を磨こう!!」

総会資料を振り返ると、平成11年度から毎年度通常総会には、目標を掲げ、連盟の発展を願って活動してきた。平成15年度からは、重点目標に選手強化、事業方針としては、少年剣道指導育成、組織の強化拡充、事業の活性化を掲げていた訳だが、とりわけ、今のスタイルで年々具体的な事業方針を謳った形式になったのは、県剣連が長期構想を打ち出し始めた、平成17年頃からであった。

(4) 武道の必修化―越前市内の全中学校が「剣道」を選択

武道の必修化については、国会で平成18年に教育基本法の改正があり、教育目標に「我が国と郷土を愛する」が盛り込まれたことを受け、文部科学省が学習指導要領を改訂して、「伝統文化の尊重」という言葉が入った。このことが、中学校での武道の必修化につながり、中学校1・2年の保健体育で男女とも必修になった。武道の種目は、学校ごとに柔道、剣道、相撲のほか、地域の実情に応じて、なぎなたや空手、少林寺拳法、合気道、弓道、銃剣道から選ぶことになり、各中学校においては、この法律改正により平成24年度からの完全実施に向けた取り組みや体制づくりの準備が行われた。

このことを受けて、越前市の各中学校において武道の必修科目選択を何にするか検討された結果、越前市内の全中学校が「剣道」を必修科目として

実施されることになった。その背景には、一つは、市剣連会員に中学校教諭が多く、剣道を指導することができる人材に恵まれている点である。二つ目は、他の種目と比べ歴史と伝統のある剣道スポーツ少年団が8団もあり、また、その指導者として会員が携わっていることである。

これにより、今後は、越前市内の中学校の1・2学年の体育の科目に、「剣道」という武道をすべての生徒が学ぶことになった。また、県剣連の長期構想の中でも今後の課題の一つとして、剣道の底辺拡大や剣道人口拡大を挙げていただけに、この武道の必修化は、市剣連にとって、この機会に剣道への興味を抱く生徒が増え、願ってもないことである。

(5) 少年剣道に関する課題と取り組み

近年の少子化の影響で、市内の剣道スポーツ少年団の団員数も自ずと減り、10年前と比べて約6割となっている。これは、連盟が主催・主管・共催する少年剣道大会の参加者、級位審査の受審者等にも現れている。特に女子剣士の減少で、中体連の団体チームが組めないような事態に陥っている。

このような現象は、サッカー、野球等の人気スポーツに押され気味で、地味な剣道等の競技人口が減少する要因にもなっている。市剣連としては、底辺拡大を毎年重点目標に掲げ、少年剣道の育成事業を展開してきたが、根本的な問題解決にはつながらなかった。

しかしながら、少年剣道育成の新しい取り組みも見受けられ、この10年間を振り返ると次のようなことが挙げられる。

- ・ 県剣連のジュニア強化剣道大会、世界一剣道教室等の少年剣道育成事業。
- ・ 「木刀による剣道基本技稽古法」の講習会と普及。(平成22年度～)
- ・ 武道の必修化—市内の全中学校が「剣道」を選択。(平成24年度～)
- ・ 福井国体(平成30年)の準強化指定校に武生一中が指定されたこと。(平成24年度)

- ・ 少年剣道レベルアップ教室の開催
(平成25年9月より大稽古会の前に実施)

- ・ 市体協主催「武道フェスタ」の開催
(平成20年より剣道・居合道のふれあい体験)

また、従来から市剣連が少年剣道育成事業として活動してきた年間実施項目を列記すると、次のような事項がある。

- ・ 市内剣道スポーツ少年団交流稽古会 (4月)
- ・ 福井県少年少女剣道錬成武生大会 (8月)
- ・ 越前市少年少女スポーツ交流剣道大会
(9月、越前市教育委員会主催)
- ・ 越前市少年少女合同交流剣道大会、年間表彰
(12月)
- ・ 越前市少年少女剣道大会 (3月、市体協と共催)
- ・ 南越地区中体連大会剣道競技の審判協力
(毎年6月、10月)
- ・ 幼年剣道教室
(年間20回、越前市教育委員会主催)

なお、次世代を担う少年たちの健全育成と剣道人口の底辺拡大を願って、市内の剣道スポーツ少年団、中学校剣道部に対し、市剣連では昭和60年から平成20年まで、毎年活動助成金を交付し、微力ながら支援してきた。



交流剣道大会の開会式



各団体へ助成金交付

(6) 福井県知事杯「第1回福井県剣道選手権大会」を主管開催

県剣連は平成15年度に創立50周年を迎え記念剣道大会として「福井県東西対抗剣道大会」が、小学生から一般まで幅広い年代からの選抜者により行われた。

平成16年度は、新しい出発の年でもあったため、原点に戻り、当時の山田則雄会長ら役員が西川知事はじめ関係機関に対して、積極的に新規事業の提案に奔走した。そして、「福井県知事杯第1回福井県剣道選手権大会」を開催する運びとなった。

本大会は、福井県東西対抗剣道大会に代わる新たな事業であり、どのような形で福井県の最も権威ある剣道大会にしていくかが焦点であった。本大会の優勝者の位置付けは、男子は「全日本剣道選手権大会」、女子は「全日本剣道女子選手権大会」に本県代表選手として、出場できるという、誇り高きものになった。また開催方法についても、県内に広く剣道の普及振興を図るという趣旨で、各地区剣道連盟が主管となり、持ち回りで開催することになった。

こうして、福井県知事杯「第1回福井県剣道選手権大会」を、武生地区が主管することになった。初回を担当することは、大変光栄で記念すべきことではあったが、その分、大会の準備・運営には様々な問題が立ち上がった。

大会会場の選定から始まり、大会プログラム作成、大会次第、会場配置等について県剣連との綿密な打合せを終え、開催を迎えることになった。また、一方で多くの県民に対して、権威ある重要な剣道

大会であることを印象づけるために、どのように広報するかという点で苦労した。その一環として近隣地区剣道連盟に対し大会を観戦されるよう勧誘した。何事も最初が肝心で、今後の大会主管のお手本を示さなければと石黒会長はじめ執行部一同が企画、立案に知恵を絞ったことが思い出される。

本大会当日、西川知事より「福井県知事杯」が県剣連山田会長に授与され、知事から次のような祝辞があり、第1回福井県剣道選手権大会が始まった。

「剣道をはじめとする武道は、体を鍛え、技を磨くことはもちろん、礼を重んじ、相手を思いやる心を育てるなど、豊かな人間形成という観点からも極めて大きな意義を有するものと考えている。本大会は、福井県剣道連盟の最も心技力に優れた選手によって優勝を競い、本年度の全日本剣道選手権大会の本県代表選手を決定するなど、極めて重要な大会であるとともに、剣道の競技力向上はもとより、本県スポーツの振興という点においても大きな意味を持つ大会である。選手の皆様には、日ごろの練習の成果を存分に発揮され、手に汗握る試合を繰り広げていただき、互いの交流を深められ、思い出に残るすばらしい大会となることを期待している。」

また、知事退席時には、自ら出場選手のところに出向き、激励の言葉と握手をしながら会場を後にされたのが印象的であった。

なお、大会の結果等については、第二章 10年間の事業略年表に掲載。



西川知事より授与された知事杯



選手宣誓をする森岡選手

(7) 昇段者・高段者の増加および女子会員の躍進

1) 昇段者（称号を含む）の増加

この10年間に会員が昇段・称号審査に挑み、剣道で64名、居合道で36名、剣道および居合道の両方において昇段された方も5名おり、剣道と居合道を合わせるとちょうど100名の方が見事合格し昇段された。このことは、会員相互にとっても大きな刺激となり、技術の向上や稽古の励みにもなり、ひいては連盟の活性化につながっている。昇段された方々は、新年会の昇段者披露の席上で「今後も稽古に精進したい」と決意を述べていた。

今後も、会員各々が一つ上を目指し昇段され、より活気のある連盟になることを期待している。

2) 高段者の増加

昇段審査合格までの道のりは、高段になるほど段位取得が難しくなるのは他の武道も同じである。剣道では「四段以上が高段者」と言われ、更に六段以上の合格率は10%~25%と大変難関の審査であるため、その分しっかり稽古を積んで望まないと合格しない。このような合格状況の全国審査（県内での昇段審査は五段まで、六段以上は全日本剣道連盟が日程・場所を指定して実施）に臨まれて、見事合格した会員が、剣道で11名と大幅に増加した。このことは、市剣連にとって大きな出来事であるとともに、後進の会員に対するよい模範となった。

なお、六段合格者の内、谷口典子は県内の女子剣道界では2番目に合格するなど女子会員の中心的存在になった。70歳を超え初めての全国審査会に臨み、見事六段に合格した山田昭榮。また、こ

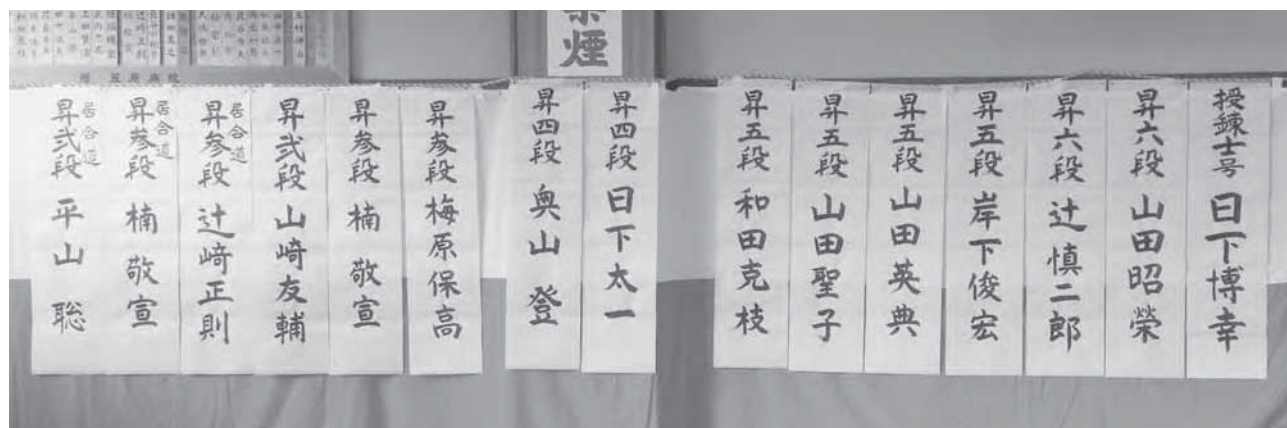
の10年間に六段、七段と一気に昇段した大嶋雅典についても、これもまた努力と精進があって成し得た事であり、各々が会員の模範となった。

一方、居合道においても、玉村伸治が六段、七段と一気に昇段し、県内唯一の七段受有者となり、居合道界の第一人者となった。このことは、県内の居合道はもちろん市剣連居合道の更なる発展に道を切り開く、特筆すべき事項となった。

3) 女子会員の躍進

市剣連に、山田聖子、堀端 愛、丸山志織などの有望な女子会員が加わり、谷口典子、和田克枝、高原理江子、細川梨絵などの会員らとともに、県内の各種剣道大会での躍進振りが目立った10年間であった。特に山田聖子にあっては、平成25年度の福井県知事杯福井県剣道選手権大会に、4年連続7回目の優勝と、権威あるこの剣道大会を制し、今や全国大会での活躍は周知のとおりである。この山田聖子を中心に、元々実力のある谷口典子、和田克枝や勢いのある堀端 愛などと団体戦のメンバーを組む市剣連チームは、県民スポーツ祭、福井県剣道大会などにおいて、数々の立派な成績を残している。その詳しい成績等については、第二章 10年間の事業略年表に掲載。

このように市剣連の女子会員の活躍ぶりは、次世代の女子剣士への励みにもなり、ひいては県剣連の女性部会の活性化につながるものと期待している。



平成26年試切り大会にて

(8) 「木刀による剣道基本技稽古法」の制定と必修

「木刀による剣道基本技稽古法」とは、全剣連では木刀は日本刀の代用であり、木刀の操作を修練することによって「剣の理法」を理解し、特に基本の習得には効果的であるということから、「木刀による剣道基本技稽古法」が平成15年6月に初心者用の形稽古法として制定された。

この稽古法の目的は

1. 竹刀は日本刀であるという観念を理解させ、日本刀に関する知識を養う。
2. 木刀の操作によって、剣道の基本技を習得させ、応用技への発展を可能にする。
3. この稽古法の習得によって、日本剣道形への移行を容易にする。

上記3点の趣旨によって、多くの技の中から9本の基本技が選定された。

全剣連では、平成24年度からの中学校での武道必修化に向け、集団指導の教材として「木刀による剣道基本技稽古法」を採り入れることを視野に入れ、平成21年6月には剣道級位審査規則を改定。平成22年度からは、改正された級位審査規則により実施するよう通達があった。

また、実際の審査方法等については、都道府県の審査体制の状況に応じて都道府県で決めることになったため、県剣連では、当分の間、地区剣道連盟が実施する講習会を受講したことをもって合格とすることになった。なお、県剣連では、新たな審査体制を整える必要に迫られ、地区剣道連盟の講師となる剣道指導者に対し、種々の講習会で伝達、指導することになった。そして、県認定された講師による講習会を要件として、改定級位審査規定に基づく審査を実施することになった。

市剣連の会員も県剣連の認定を受けるために、県剣連指定の講習会を受け、当初15名の会員が認定され、平成22年度の第1回級位審査会から実施することになった。このようにして、最初の「木刀による剣道基本技稽古法」講習会を吉野小学校体育館で開催し、会員講師11名の参加協力を得て、無事に実施することができた。このときの受講者数は、1級～3級69名で全員に修了証が交付された。ちなみに、一級受講者は9本全て、二級受講者は1本から6本まで、三級受講者は、1本から4本までの基本技の形を受講することになっている。

これ以後、級審査会の1週間前に、「木刀による剣道基本技稽古法」の講習会を実施している。



「木刀による剣道基本技稽古法」講習会（平成22年度）

(9) 新春奉納試切り大会 (60回継続)

昭和28年頃、数名の会員が藤井精治元会長宅の庭先を集まり、剣道の基である日本刀の操法や所作を習得し、その技を剣道に活かす目的で、試切り大会が始められた。昭和30年に引接寺山門で第1回の奉納演武が行われ、その後、総社大神宮、越前市武道館と会場は変わったが、平成26年正月3日で60回を数える。

試切り大会は神事に始まり、日本剣道形・居合道の奉納演武に引き続き、試切りが行われる。前年に昇段した会員が試切りの演武者となるのが慣例になっており、普段の稽古にも熱が入るといふものだ。試切りをすることで、他の地区剣連より日本刀を使用する機会が多く、居合道の修練をする会員も増えていった。

巻藁は米俵1俵分の“こも”を、人間の背骨に見立てた数cmの太さの真竹に巻いて、1分5厘の藁縄で5か所縛って作られている。仕上がりは太さ約15cm、長さ約90cmの円柱形である。これを1週間ほど水に浸しておく、硬さが人間の腰腹部に相当するという。

切り方には、袈裟切りだけでなく、逆袈裟や切り上げ、水平切りなどがあるが、藤井元会長からは「試切りは、奉納する大切な儀式である。ただ袈裟の一太刀のみである」と教えられたものである。

市剣連が行う試切りは、巻藁を固定せず巻藁立ての上に据えるだけなので倒れやすい。刃筋が正しければ、空を切っているように抵抗を感じず、巻藁を倒すことなく切れるものである。近年の試切りでは、巻藁を倒すことなく一刀両断する演武者が少なくなったように思われる。鮮やかに切るには、事前に日本刀・模擬刀による素振りをお奨めしたい。刀を振った時の“刃音”により、刃筋

が正しいことが自分で確認できる。特に腕だけでなく、体さばきで引き切りすることを体得すれば容易に切ることができる。

試切りの後は、刀に藁の灰汁や水分も付着している、錆ないよう打粉を打って、新しい刀油を引くことが大切である。これまで、西出和男居合道委員長が丹念に刀の手入れをして保管してきた。そのお陰で長年にわたり安全性が保たれている。

昭和30年代に始まった頃は、豊屋さんであった藤井時造氏が巻藁を作製しており、年末にでき上がると他の会員と共に、東小学校の水泳プールに浸しに行き、正月を迎えていた。そして50年代半ばからは谷口正儀氏が25年にわたり受け継がれた。谷口先生がご高齢になられたので、平成17年から玉村伸治が引き継いで現在に至っている。なお、使う藁は谷口先生が県庁勤務時代に知り合った河野文一氏（南越前町杉谷）から提供を受けている。文一氏は数年前に不慮の事故で亡くなったが、ご子息の文良氏が引き継いで現在もお世話になっている。山間の田で採れた稲は、砂埃がないので刀に傷を付けず、かつ、一株ずつ手刈りして、“はさば”で天日干した藁は芯が丈夫で作業しやすく、仕上がりも綺麗になる貴重品である。巻藁の芯に直径2~4cmの真竹を調達しているが、これも毎年、永宮繁二氏（氷坂町）にお願いしている。真竹が住宅の裏庭で採れる、数少ない絶好の場所である。

先輩剣士から60年にわたって受け継がれてきた試切り大会は、我々会員の誇りであり、巻藁作製の作業手順や日本刀の手入れ法、材料提供の人脈などを次の世代に伝承し続けたいものである。



松本敏夫 (平成21年)



民谷秀夫 (平成21年)

(10) 福井県少年少女剣道錬成武生大会 (42回継続)

1) 福井県少年少女剣道錬成武生大会

市剣連を代表する事業でもある福井県少年少女錬成武生大会は、平成25年に第42回を迎えた。

本大会が開催される経緯は、昭和40年代、福井県では小学生の県下剣道大会というと、年一回、福井市で開催されているだけであった。「せっかく子供たちが稽古しているのに、その成果を発揮する場所・機会を増やしてやりたい。是非、武生でも県下少年剣道大会を開催して欲しい」との岩越正先生の要請に応える形で、武生市剣道連盟の主催により、昭和47年に第1回大会を武生西小学校講堂で開催した。

今でこそ、県内各地域で少年剣道大会が開催され試合の機会が増えており、全国少年剣道大会の予選を兼ねた大会や強化を目的にした大会等も開催されている。中でも県内の三大少年剣道大会とも言われる福井県少年錬成剣道大会、少年剣道敦賀大会、そして本大会は、各団体や少年剣士たちにとって、年間の参加目標としている大会でもある。

その三大少年剣道大会も各々試合形式・運営方式上の違いがある中で、武生大会は他の大会とは違う次のような特徴がある。

- 1) 団体戦では、予選リーグを採用して、必ず2回以上の試合ができること。
- 2) 個人戦では、各学年別、男女別ごとに各ブロック分け方式を採用して、部門別の入賞者を多くすることで子供たちの意欲が高まること。
- 3) 団体戦に出場する選手は、個人戦に出場できないことにより、今まで控えであった選手にも出場する機会が得られること。

このように、第1回大会が開催されたときの原点を忘れず、長年にわたり継続しているところに本大会の大きな意義があると考えている。

ところで、本大会の参加者は、ピーク時の昭和63年には46チーム個人621人と総勢851人の選手の参加があったが、平成15年から平成25年は、団体チームで40チーム前後、個人戦で250人前後、総数約450人と約2割減少となっている。このような中で、団体チームが組めないところは個人戦のみ参加申込する団体が増え、こうした傾向は、ここ数年多くなっている。

また、越前市の参加団体チームの成績は、平成15、16年に国高剣道スポーツ少年団が、団体3位に入賞したものの、残念ながらそれ以降は遠ざかっている。

現在、8団体の剣道スポーツ少年団が活動しており、各々の団体では、夏休み期間を活用し、合宿や暑中稽古を取り入れ、本大会の30年振りの団体優勝を目指している。本大会が42回継続していることは、県下の少年剣道育成に大いに寄与していると言っても過言でない。



試合風景 (平成24年)



表彰式 (平成24年)

2) 東日本大震災復興支援を兼ねた錬成武生大会
特筆すべき大会は、平成23年の第40回福井県少年少女剣道錬成武生大会である。

市剣連の理事会において、本大会を開催するにあたり次のような提案があった。

- ・平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、被災された少年少女剣士たちに対して、何か励ますようなことが市剣連としてできないものか。
- ・本大会もちょうど40回を迎えるが、その節目の大会として何かできないものか。

この2点について議論した結果、今年度の錬成武生大会を開催するに当たり、大会名に「東日本大震災復興支援大会」を入れて開催することになった。また、被災地へ義援金を贈ることも併せて決議した。

これを受けて、大会の実行委員会では、次のような内容等で実施することになった。

- ・被災地に義援金を贈るために参加費を徴収しその一部を充てる。
- ・義援金の金額は、10万円とする。
- ・義援金は、被災地の同じ剣道仲間へ届くよう越前市に付託する。
- ・参加選手等に対しては、「感謝の手拭い」を差し上げお礼とする。
- ・参加費徴収にあっては、趣旨書を作成し、事前に参加団体へ通知する。
- ・参加費の徴収は、当面、本大会限りとして扱う。

このようなことで、40回大会は、被災地の少年少女剣士たちへの復興支援を兼ねた大会であり、本大会開催以来初めて参加費を徴収することになった。



復興支援大会 記念手拭い



復興支援大会 試合風景



大会に備えて準備に余念がない担当委員

(11) 居合道の普及と現状

昭和61年に県剣連が居合道を普及し始めてから約30年になろうとしている。その当時県内では、定期的に稽古する場所も指導者も整っておらず、市剣連では、神山地区の有志が毎週月曜日に自主的稽古会を続けているに過ぎなかった。それから現在まで、“神山道場”として稽古会は続いており、今では福井県居合道の中心を成す存在である。他の地区にも少人数ながら稽古をする人はいたが、定期的稽古会とはいえるものは少ない状態であった。その後、平成15年頃から鯖江の中嶋道場に居合道部が新設され、市剣連会員の中にも参加する人が現れた。

そして平成20年になってようやく市武道館において居合道を毎週日曜日の午後、定期的に稽古するようになった。これに市教育委員会主催のスポーツ教室（居合道入門コース）に応募した人を勧誘し稽古を続け、居合道専門の市剣連会員が徐々に増えていった。その他に定年後に居合道を稽古する高齢の入門者もあり、初段、二段と昇段者の増加がみられ、平成25年度末には市剣連の居合道有段者数は32名となった。

この10年間の、市剣連の実績を振り返ると、福井県居合道大会では平成23年を除き、毎回連続して団体優勝を果たしている。団体戦にエントリーするチーム数も当連盟が毎年3チームずつ参加していて、層の厚さでも県内において市剣連が県の居合道を牽引しているともいえる。一団体あたりの参加チーム制限で、団体戦に出られない人も個人戦に出場し、各段押しなべて上位入賞者を輩出している。

平成22年度から25年度まで、西出和男が県剣連居合道委員長を務め、毎年石川県剣連と連絡を密にし、講師を招聘し講習会並びに居合道昇段審査会の開催を定着させた。それまでの酒田前委員長が開いた道を確認たるものにし、市連盟のみならず県剣連居合道部会員の技能向上に大きく寄与している。

また、毎年10月に開催される、全日本居合道大会にも、市剣連から、毎年県代表の選手を送り出している。全国的にみると福井県はまだ低レベルにあり、毎回、初戦敗退しているのが現状である。競技力向上のため、他の地方大会へ参加して経験を積むことや、居合道講習会への参加、日ごろの稽古法など、今後の課題が山積している。

居合道を広く市民に知ってもらうため、この10年間に行われた居合道の普及広報活動として次のようなことが挙げられる。

- ・平成16年～20年 県知事杯剣道選手権での演武
- ・平成17年～21年 県営体育館で開催された“体操フェスティバル”での演武
- ・平成20年～25年 市体協主催 武道体験フェスタでの居合道コーナー開設
- ・平成20年11月 県立武道館開設20周年記念式典で居合道・試切り演武
- ・平成21年～25年 市教育委員会主催 スポーツ教室に“居合道入門教室”を開設
- ・平成21年～25年 スポーツ教室応募者の個別指導・連盟会員への勧誘



福井県居合道大会 団体・個人戦入賞者



招聘講師（石川県剣連）による講習会

(12) 創立60周年記念事業

1) 記念剣道大会

平成25年11月24日(日)の午後1時30分から、越前市武道館剣道場において、創立60周年記念剣道大会が開催された。市内の小中学生が一堂に集い、個人戦で小中学生の男女別選手権を競うものとして参加者を募ったものである。

60周年記念事業として何を行うか、高段者による記念講話と講習会や近隣連盟との対抗試合とか、昨年より回を重ねて検討されてきたが、県剣連の行事との兼ね合いもあって、小中学生の選手権試合に落ち着いたのである。

午後1時受付の案内ではあったが、少し早めに集まった選手から順次、トーナメント戦の抽選により組み合わせを決定した。

小学生は4年生以上、中学生は全学年一括の男女別トーナメント戦であり、これまでの学年別の個人戦とは趣を変えたものである。

定刻になり尾形理事長の司会で、記念大会が開始された。来賓に奈良市長、美濃体育協会会長、中島教育長、五十嵐スポーツ課副課長をお迎えし、次のような大会次第で進行した。

1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 来賓祝辞

4. 演武

日本剣道形 全日本剣道連盟居合

5. 休憩 (試合準備)

6. 小中学生試合

小学生男女の部 中学生男女の部

7. 表彰

8. 閉会の辞

公開演武ではまず日本剣道形が、和田真吾・克枝夫妻により披露された。近年稀に見る一流剣士夫妻による息の合った演武で華を添えた。続いて玉村伸治七段の解説に合わせ、楠敬宣参段と平山聡武段が木刀で、相手を立てた居合の技を披露した後、西出和男五段が真剣を持って同じ技を演武した。

会場には、連盟会員39名、小学生選手46名、中学生選手33名のほか育成会の父兄が多数参加して盛会となった。

その後、藤岡審判長のもと、会員が審判を務め試合が開始され、結果は次のとおりである。

◎小学生男子

優勝 水上晴貴 (王子保小学校)

2位 中西海斗 (王子保小学校)

3位 牧野 歩 (国高小学校)

3位 中村拓未 (王子保小学校)



◎中学生男子

優勝 貢 駿登 (今庄中学校)

2位 山下優也 (武生第六中学校)

3位 京藤尚輝 (武生第一中学校)

3位 道上隼登 (武生第二中学校)



◎小学生女子

優勝 山下真奈 (王子保小学校)

2位 宇野しずく (王子保小学校)

3位 西出光里 (神山小学校)

3位 目黒巴子 (神山小学校)



◎中学生女子

優勝 加藤七海 (武生第一中学校)

2位 藤井涼香 (武生第六中学校)

3位 徳嶋沙恵 (武生第一中学校)



2) 記念祝賀会

記念剣道大会が終了した後、場所を市内の料亭鎌仁別荘に移し、受付を済ませた人から3階の会議室に集まり、出席者全員の記念撮影が行われた。

午後6時30分より記念祝賀会が開催された。祝賀会場は、椅子席が設けられ、テーブルの中央には「平常心」「心技体」「克己心」など、剣道用語の表示札が立てられ雰囲気盛り上げていた。剣道大会の来賓に加え、福山市議会議長、宮本市スポーツ少年団本部長、岩崎県剣道連盟会長のご臨席をいただき、また各剣道スポーツ少年団育成会役員のご出席も得て、会員49名と共に盛大な祝賀会となった。来賓の席には、宮川副理事長が編集した「10年の歩み」が置かれ、記念の手拭いと合わせてお土産とした。

尾形理事長の司会で開会され、会長挨拶、来賓祝辞と進められた。また、近年ご逝去された石黒内匠先生、谷口正儀先生、小泉宗之先生、佐々木庄一郎先生、高山卓三先生、是広昌之先生に対し黙祷が捧げられた。続いて、連盟の活動に尽力さ

れた特別功労者表彰があり、金嶋会長から表彰状と記念品として白檜の木刀が授与された。表彰された会員は次の9名の方である。

山田昭榮	民谷秀夫	山本聰實
藤岡文男	田中眞一	長田豊
萩原誠治	三崎良治	玉村伸治

乾杯は岩崎貞夫県剣連会長のご発声により行われ、その後は賑やかな歓談の場となった。暫くしてステージの上で余興が始まった。日本舞踊を披露されたのは、永坂重几である。北島三郎の歌謡曲に合わせ、年季を感じさせる舞踊で、参加会員からも拍手喝采、大きな声も掛かり、祝賀ムードをいやがうえにも盛り上げた。

その後、各テーブルでは剣道談義に花が咲き、夜の更けるのも分からないほどであった。それでも、午後9時頃には中島教育長の発声で、中締めの方歳が三唱され、やがてお開きとなった。



中島教育長による万歳三唱

第二章 10年間の事業略年表（年度別）

※文中の団体・個人名は敬称を略します。

平成15年度

- 4/13 福井県剣道連盟創立50周年記念 第1回高齢者剣道大会（県立武道館）
[一部] 三位 徳橋逸也 [二部] 二位 尾形言成、四位 宮下孝典
- 7/6 第50回武生市民体育大会 剣道競技（吉野小体育館）
市体育功労賞（剣道） 西出和男 [一部] 優勝 西地区 [二部] 優勝 神山地区
- 7/27 第55回県民体育大会（県立武道館）
[団体の部] 男子 二位 和田真吾、山本哲司、朝倉匡哉、辻慎二郎、森岡裕一
女子 三位 田中克枝、寺窪郁美、谷口典子
[個人の部] 30歳以上の部 二位 上野吉弘
- 8/10 第12回少年少女合同交流稽古会兼審判講習会（市武道館）
交流稽古会：参加者（指導者32名・小学生約50名）
審判講習会：講師 石黒内匠・松本敏夫（29名受講）
- 8/12 武生市剣道連盟創立50周年兼武生市武道館落成25周年記念
第32回福井県少年少女剣道錬成武生大会（市体育館）
[団体の部] 三位 国高剣道スポーツ少年団A
- 9/7 第42回全日本女子剣道選手権大会（名古屋市中村スポーツセンター）
[県代表] 谷口典子
- 9/23 福井県剣道連盟創立50周年記念 第51回福井県剣道大会（県立武道館）
[一般男子の部] 三位 山田祥広、和田真吾、山本 仁、朝倉匡哉、森岡裕一
[一般女子の部] 三位 寺窪郁美、田中克枝、谷口典子
[50周年特別表彰] ・特別功労賞 石黒内匠 ・少年剣道育成功労賞 瓜生有具、源 善浄
- 9/28 県外研修旅行 第49回全日本東西対抗剣道大会観戦（滋賀県立体育館）
市連盟会員19名、中学生2名 計21名参加 <西川 譲選手出場>
- 10/13 福井県剣道連盟創立50周年記念事業 第8回福井県東西対抗剣道大会（県立武道館）
[出場者] 西軍として武生地区から9名が選出される <東西対抗剣道大会は今回で閉じる>
- 10/18 第38回全日本居合道大会（埼玉県秩父市文化体育センター）
[県代表] 六段の部 玉村伸治
- 10/19 第16回全国健康福祉祭剣道大会（徳島県阿南市スポーツ総合センター）
[県代表] 徳橋逸也、金嶋八郎
- 11/3 大塩八幡宮拝殿修復事業 竣工奉納祭奉納演武（大塩八幡宮）
[日本剣道形] 打太刀 藤岡文男 仕太刀 内藤嘉昭
[居合道] 玉村伸治、西出和男
- 11/18 武生市剣道連盟創立50周年・市武道館落成25周年記念式典（市武道館）
・記念碑建立除幕式石碑 <黒御影石> 「錬気養心」の文字が刻まれる
・剣道作文コンクール表彰、優秀作品発表・講評
・演武披露 [日本剣道形] 打太刀 藤岡文男 仕太刀 内藤嘉昭
[居合道] 玉村伸治、西出和男
・記念講演 テーマ「剣道の基礎づくり」 ・少年少女剣道実技指導講座
講師：教士八段 相模利朗先生
・記念剣道大会（近隣地区招待：南条、鯖江、今立）武生5チーム 計8チーム対抗
優勝 武生剣連Aチーム 山田祥広、和田真吾、山本 仁、山本澄人、森岡裕一
・記念祝賀会（JA越前たけふ会館） ・特別功労者表彰（12名）
- 3/7 福井県剣道連盟創立50周年記念 第16回福井県居合道大会（県立武道館）
[団体戦] 二位 武生A 田中克枝、楠 宏彰、西出和男
[個人戦] 初段以下の部 優勝 田中克枝

平成16年度

- 4/3・4 京都 文武木鷄館道場と合同稽古（市武道館）
一木猛彦教士八段以下 16 名来館・市連盟会員 14 名 <2日目は 12 名>
- 5/3 第 52 回全日本都道府県対抗剣道優勝大会（大阪市中央体育館）
[県代表] 先鋒 谷口典子、次鋒 山田祥広、副将 山本 仁 <七人制の内 3 名出場>
- 6/18 居合道七・六段審査会（新潟市）
六段合格 玉村伸治 <福井県初>
- 6/27 福井県知事杯 第 1 回福井県剣道選手権大会（市体育館）
[主 催] 福井県剣道連盟 <県剣連 50 周年を機に福井県東西対抗剣道大会に替わる新規事業>
[主 管] 武生市剣道連盟 会長以下 26 名、会場運営にあたる
[来 賓] 西川知事、箕県スポーツ保健課長、福塚市助役、玉川市議会議長、眞目教育長、
美濃体協長、奈良県議、友兼スポーツ課長
[日本剣道形] 打太刀 藤岡文男 仕太刀 内藤嘉昭
[各地区・団体選拔出場選手] 男子 35 名 女子 30 名
[武生地区選出選手] 男子 4 名、女子 4 名
<男子の部>
山田祥広、朝倉匡哉、田中基恭、森岡裕一
<女子の部>
加茂美由紀、谷口典子、細川梨絵、寺窪郁美
[選手宣誓] 森岡裕一
[試合成績] 女子の部 優勝 細川梨絵
<栄えある知事杯を授与される>
男子の部 優勝 西 隼人 <県警>
[観 客] 約 250 名
役員会員を含む総勢約 350 名が観戦。
- 7/25 第 51 回武生市民体育大会 剣道競技（市武道館）
市体育功労賞（剣道） 大嶋雅典
[一部] 優勝 西地区 [二部] 優勝 神山地区
- 8/1 第 56 回県民体育大会（県立武道館）
[団体の部] 女子 優勝 寺窪郁美、田中克枝、谷口典子
- 9/5 第 43 回全日本女子剣道選手権大会（名古屋市）
[県代表] 細川梨絵
- 9/23 第 52 回福井県剣道大会（県立武道館）
県剣連功労賞 高山卓三
- 10/16 第 39 回全日本居合道大会（宮崎県武道館）
[県代表] 六段の部 西出和男
- 11/7 福井県実業団柔剣道大会（県立武道館）
個人戦 [三段以上の部] 優勝 山田祥広
[二段以下の部] 三位 関 学
- 11/19~ 全剣連社会体育指導員養成講習会〈初級〉（県立武道館）
21 [参加者] 瓜生有具、永坂重几、玉村伸治、堂前光夫、日下博幸、辻 慎二郎、山田剛広、
山田祥広、岸下俊宏、田中基恭、岸本 修、廣田 暢、大谷茂和 以上 13 名が受講
- 3/6 第 17 回福井県居合道大会（県立武道館）
[団体戦] 優勝 武生 A 角 裕幸、西出和男、田中眞一



女子の部優勝の細川梨絵他入賞者

平成17年度

- 5/1 第53回全日本都道府県対抗剣道優勝大会（大阪府立体育館）
〔県代表〕先鋒 谷口典子 <2年連続>

5/25～ 全剣連主催

- 29 第43回中堅剣士講習会
（奈良中央武道場）
福井県剣道連盟推薦により
宮川保則参加



第43回 剣道中堅剣士講習会 平成17年5月25日(水)～29日(日) 於：奈良中央武道場

- 6/26 福井県知事杯 第2回福井県剣道選手権大会（丸岡町民体育館）
〔女子の部〕優勝 光永聖子 <学剣連> 二位 谷口典子

- 7/24 第52回武生市民体育大会 剣道競技（市武道館）
市体育功労賞（剣道）中野芳樹
優勝 神山地区（今回の大会から一部、二部の区分がなくなる）

- 8/1 '05県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
今回の大会から大会名称が変更になり、要綱が一新される。出場チーム数は自由、市町村対抗、競技種目毎の成績および個人戦はなくなり、多くの県民がスポーツ等に参加することを重視した。
〔男子団体〕男子5チーム出場 男子A ベスト8
〔女子団体〕二位 武生市 寺窪郁美、和田克枝、谷口典子

- 9/4 第41回福井県スポーツ少年団大会 剣道競技（武生第一中学校体育館）
主管：武生市剣道連盟 会員審判協力22名
参加チーム45チーム 総数約300名

- 9/4 第44回全日本女子剣道選手権大会（静岡県武道館）
〔県代表〕光永聖子（三段・初出場）は、一回戦
兵庫県代表の村山香織（六段・6回目）と対戦
するが、延長で小手を取られ惜敗する



福井県代表 光永聖子

- 9/23 第53回福井県剣道大会（県立武道館）
〔一般女子の部〕
優勝 武生市 和田克枝、高原理江子、谷口典子
県剣連功労賞 萩原誠治

- 10/10 市町村合併による
〔越前市体育協会〕発足会（武生商工会館）
〔出席者〕石黒内匠会長、松本敏夫理事長、堂前光夫事務次長

- 10/15 第40回全日本居合道大会（千葉ポートアリーナ）
〔県代表〕七段の部 玉村伸治 六段の部 西出和男

- 11/19 武生市・今立両剣連 合併調整会議（市武道館）
〔出席者〕武生7名 今立3名

- 3/5 第18回福井県居合道大会（県立武道館）
〔団体戦〕優勝 武生A 角 裕幸、西出和男、松本敏夫
〔個人戦〕三段の部 優勝 大嶋雅典

平成18年度

- 4/29 武生市剣道連盟解散総会および越前市剣道連盟設立総会（JA越前たけふ会館）
[来賓] 奈良市長、片粕市議会議長、美濃市体協長、中島教育長、黒田スポーツ課長
[会員] 51名
平成17年度事業報告と決算報告新連盟引継ぎ事項等を承認後、新連盟設立総会開催。新規約、新役員、平成18年度事業計画、予算案等を審議、承認される。<議長 日下博幸>
- 4/29 第54回全日本都道府県対抗剣道優勝大会（大阪府立体育館）
[県代表] 中堅 和田真吾 <2回目> 引分（滋賀県と対戦）チーム1対1の代表戦で惜敗。
ベスト16を逃す
- 6/25 福井県知事杯 故山田則雄先生追善 第3回福井県剣道選手権大会（鯖江市総合体育館）
[女子の部] 優勝 細川梨絵 <2回目>
- 7/8・9 第41回北陸地区高専体育大会 剣道競技（市武道館）
審判協力：市連盟会員15名
- 7/23 第1回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
市体育功労賞（剣道） 岡田孝一
優勝 南地区 <合併後第1回の大会、競技要綱も改正各地区何チームでも参加可能となる>
- 7/30 '06県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
[成年女子の部] 二位 越前市 細川千絵、和田克枝、高原理江子 <南越前町に惜敗>
- 9/3 第45回全日本女子剣道選手権大会（静岡県武道館）
[県代表] 細川梨絵
- 9/23 第54回福井県剣道大会（県立武道館）
県剣連功労賞 尾形言成
[団体女子] 三位 仁愛大学 <初出場・準会員>
- 10/21 第41回全日本居合道大会（北海道立総合体育センター）
[県代表] 六段の部 西出和男
- 11/11 第1回県中学校秋季新人大会剣道競技（敦賀市中郷体育館）
[県参与] 石黒内匠 [審判協力] 尾形言成、宮川保則
- 11/26 市民剣道祭（市武道館）
3人制団体リーグ戦 5チーム参加
優勝「良いチーム」
田中基恭、岸下俊宏、宮川保則
二位「スーパーセリカチーム」
平山 聡、楠 敬宣、白崎雅人
三位「チーム大嶋」
押田裕介、和田真吾、大嶋雅典



市民剣道祭 閉会式

- 12/19 丹南ケーブル「レッツ スポレカル」剣道を放映
[指導] 金嶋八郎会長、会員等協力
(H19.1/19より1週間放映)

- 3/4 第19回福井県居合道大会（市武道館）
[団体戦] 優勝 越前市A 角 裕幸、西出和男、松本敏夫
[個人戦] 三段の部 優勝 大嶋雅典
四段の部 優勝 角 裕幸

平成19年度

- 4/29 第55回全日本都道府県対抗剣道優勝大会（大阪府立体育館）
 [県代表] 五将 谷口典子
 <福井県チーム1回戦奈良県に勝ち、2回戦宮城県に敗れる>
- 6/10 福井県知事杯 第4回福井県剣道選手権大会（県立武道館・福井地区担当）
 [女子の部] 優勝 山田聖子 <2回目>
- 6/24 県内遠征（敦賀市武道館）
 [参加者] 会長以下17名 <県合同稽古会を兼ねた遠征>
 午前9時武道館を出発し、敦賀地区剣道連盟会員等と約1時間稽古後、敦賀トンネル温泉（北国グランドホテル）で昼食・入浴して研修を終える。
- 7/16 第24回全国家庭婦人剣道大会（日本武道館）
 [県代表] 副将 高原理江子
- 7/22 第2回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
 優勝 南地区
- 8/5 '07県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
 [成年女子の部] 二位 越前市
 山田聖子、高原理江子、谷口典子
 [壮年男子の部] 三位 越前市B
 森岡裕一、宮川保則、松本敏夫
 <今年度より、壮年の部が創設された>
- 8/26 第28回北信越国民体育大会（県立武道館）
 [県代表] 成年女子 優勝 福井県 先鋒 山田聖子
- 9/9 滋賀県剣道連盟 淡海会来館（市武道館）
 [参加者] 市剣連会員14名、県剣連11名、淡海会19名による合同稽古
- 9/23 追悼 岩越 正先生33回忌 第55回福井県剣道大会（県立武道館）
 県剣連功労賞 倉橋良滋
 優秀選手賞 山田聖子 <北信越国民体育大会女子団体優勝による>
 [団体女子の部] 三位 越前市 野川多美子、谷口典子、高原理江子
- 9/30～ 第62回秋田国民体育大会（男鹿市総合体育館）
 10/3 [成年女子] 先鋒 山田聖子
- 10/20 第42回全日本居合道大会（岡山県体育館）
 [県代表] 六段の部 西出和男 七段の部 玉村伸治
- 11/3 金嶋八郎が全日本剣道連盟の「剣道有功賞」を受賞。（石黒内匠、谷口正儀に続き市剣連3人目）
 また、武生西剣道スポーツ少年団が「少年剣道教育奨励賞」を受賞する。
- 11/ 「県剣道だより」平成19年11月発行第57号
 みんなの広場（剣道部・クラブ紹介）に
 越前市剣道連盟の紹介記事が掲載。
- 11/10 第20回全国健康福祉祭茨城大会（茨城県土浦市）
 [県代表] 大将 金嶋八郎 副将 山田昭榮
- 3/2 第20回福井県居合道大会（県立武道館）
 [団体戦] 優勝 越前市A
 角 裕幸、西出和男、松本敏夫
 [個人戦] 四段の部 優勝 角 裕幸
 二位 大嶋雅典



福井県代表の高原理江子（中央前から二人目）



ねんりんピック茨城 金嶋八郎、山田昭榮

平成20年度

- 4/29 第56回全日本都道府県対抗剣道優勝大会（大阪市中央体育館）
[県代表] 先鋒 山田聖子
＜福井県チーム1回戦愛媛県に勝ち、2回戦岡山県に惜敗する＞
- 5/10 剣道段位審査会（名古屋市）
七段合格 森岡裕一
- 7/19 第25回全国家庭婦人剣道大会（日本武道館）
[県代表] 先鋒 山田聖子
- 7/20 第3回越前市民体育大会剣道競技（市武道館）
優勝 西地区B
- 7/27 福井県知事杯 第5回福井県剣道選手権大会（敦賀市立体育館）
[女子の部] 優勝 山田聖子（2年連続3回目）
- 8/3 第21回福井県居合道大会（県立武道館）
[団体戦] 優勝 越前市A 民谷秀夫、西出和男、松本敏夫
[個人戦] 四段の部 優勝 民谷秀夫 二位 大嶋雅典
- 8/10 '08県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
[熟年男子の部] 優勝 越前市B 山本聰實、藤岡文男、長田 豊
[壮年男子の部] 三位 越前市A 辻 慎二郎、中村圭三、宮川保則
＜今年度より、熟年の部が創設され、土谷杯が授与された＞
[成年女子の部] 三位 越前市A 山田聖子、高原理江子、谷口典子
- 8/10 第50回全国教職員剣道大会（愛媛県武道館）
[個人戦] 女子の部 山田聖子 男子 幼・義務制の部 森岡裕一
- 9/7 第47回全日本女子剣道選手権大会（静岡県武道館）
[県代表] 山田聖子
- 9/7 全日本剣道連盟「試合審判法」講習会（県立武道館）
[講師] 有馬光男範士八段 市剣連会員修了者 17名 <受講生総勢85名>
- 9/9 滋賀県剣道連盟 淡海会 昨年に続き来館（市武道館）
[参加者] 市剣連会員10名、県剣連11名、淡海会9名による合同稽古
- 9/23 第56回福井県剣道大会（県立武道館）
県剣連功労賞 内藤嘉昭
[一般女子の部] 優勝 越前市A 山田聖子、六戸部香里、谷口典子
- 10/12 国高剣道スポーツ少年団創立30周年記念剣道大会（国高小体育館）
来賓として、金嶋会長、松本理事長が出席
- 10/25 第43回全日本居合道大会（仙台市体育館）
[県代表] 六段の部 西出和男 七段の部 玉村伸治
- 10/26 南条地区剣道連盟創立50周年記念剣道大会（今庄中体育館）
招待チーム
[男子] 山田祥広、山下篤史、和田真吾
朝倉匡哉、山本澄人
[女子] 吉田久代、谷口典子、寺窪郁子
- 11/8 第2回スポーツ体験フェスタ開催に協力（市武道館）
①動く人間ロボットに挑戦
②スーパーボールまで打てたら「免許皆伝」
[参加協力] 市剣連会員7名



スポーツ体験フェスタ

平成21年度

- 4/19 県外研修旅行 第7回全日本選抜剣道八段優勝大会（名古屋市中村スポーツセンター）
[選抜選手] 相模利朗先生 <初出場> 参加会員等 24名
- 6/28 福井県知事杯 第6回福井県剣道選手権大会
（大野市エキサイト広場総合体育館）
[女子の部] 二位 堀端 愛 三位 大柳奈未
<今大会では優勝を逃したが、第1回から6回
まで当連盟女子選手は上位入賞を果たす>
- 7/26 第4回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
優勝 西地区
- 8/9 '09県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
[熟年男子の部] 二位 越前市B 藤岡文男、山本聰實、山田昭榮
三位 越前市C 長田 豊、北野哲広、徳橋逸也
[成年男子の部] 三位 越前市A 山田英典、山下篤史、和田真吾、朝倉匡哉、山本澄人
[成年女子の部] 三位 越前市 加藤祐子、野川多美子、谷口典子
- 8/10 第51回全国教職員剣道大会（滋賀県立体育館）
[個人戦] 高・大・教養の部 森岡裕一
- 8/23 第30回北信越国民体育大会（石川県羽咋市）
[成年女子団体] 優勝 福井県 先鋒 細川梨絵
- 9/5 滋賀県剣道連盟 淡海会来館 <3回目>（市武道館）
[参加者] 市剣連会員 13名、県剣連約 20名、淡海会と滋賀大学生を含め 27名による合同稽古
- 9/6 第22回健康福祉祭剣道交流大会（札幌市）
[県代表] 藤岡文男
- 9/6 第22回福井県居合道大会（県立武道館）
[団体戦] 優勝（20回目）越前市A 西出和男、角 裕幸、民谷秀夫
[個人戦] 四段の部 優勝 大嶋雅典 初段以下の部 優勝 辻崎正則
- 9/20 第57回福井県剣道大会（県立武道館）
県剣連功労賞 宮川保則
- 10/3~5 第64回新潟国民体育大会（長岡市栃尾体育館）
[成年女子] 福井県 先鋒 細川梨絵 <宮城県に勝ち5位入賞>
- 10/24 第44回全日本居合道大会（長崎県）
[県代表] 六段の部 西出和男 七段の部 角 裕幸 監督 玉村伸治
- 11/14 剣道段位審査会（名古屋市）
七段合格 大嶋雅典
- 12/19 市武道館落成30周年記念 市民剣道祭（市武道館）
市武道館落成30周年記念を祝し、今年度の
市民剣道祭は「特別講習会」として実施
[参加者] 会員35名 中学生10名 計45名
1. 居合道の披露 7名の演武者が自由に5本披露
2. 「木刀による剣道技基本法」を会員に取得して
もらうため、森岡講師のもと、約1時間30分
をかけ、9本の基本技を丹念に教わる
3. 剣道の「審判法」を実践に基づき、
詳細に会員へ伝達指導 <講師：高段者>
4. 合同稽古会
- 12/20 第10回少年少女交流剣道大会（国高小学校体育館）
<新型インフルエンザの流行で中止となる>



武道館落成30周年記念 越前市民剣道祭

平成22年度

- 5/16 剣道段位審査会（名古屋市）
六段合格 谷口典子 <県内剣道界の女子では、二人目の合格者>
- 5/30 平成22年度越前市剣道連盟通常総会（JA越前たけふ会館）
役員改選があり、新理事長に尾形言成が選出され、新しい執行部体制のスタートとなる
- 6/13 第1回の「木刀による剣道基本技稽古法」講習会を開催（市武道館）
〔県剣連講師〕西川 譲 教士七段 〔受講者〕市連盟会員28名
全日本剣道連盟の級位審査規定の改正により、今後の級位審査会における審査対象科目として設定された。そのため、級審査員、少年剣道指導者等を対象に講習会を開催
<当面、講習会の受講修了証をもって、級審査会当日の受験科目を略することになった>
- 6/24 県剣連「木刀による剣道基本技稽古法」講師、審査員の認定
当剣道連盟会員の15名が認定<第1次>される
- 6/27 福井県知事杯 第7回福井県剣道選手権大会（小浜市体育館）
〔女子の部〕優勝 山田聖子 <4回目>
- 7/25 第5回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
市体育功労賞（剣道）宮川保則 〔試合成績〕優勝 西地区
- 8/1 '10県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
〔熟年男子の部〕優勝 越前市A 松本敏夫、藤岡文男、長田 豊
〔壮年男子の部〕三位 越前市C 辻 慎二郎、中村圭三、宮川保則
〔成年女子の部〕二位 越前市A 堀端 愛、山田聖子、谷口典子
三位 越前市B 大柳奈未、加藤祐子、高原理江子
- 9/5 第23回福井県居合道大会（県立武道館）
〔団体戦〕優勝 越前市A 西出和男、角 裕幸、松本敏夫
〔個人戦〕四段の部 優勝 大嶋雅典 初段以下の部 優勝 辻崎正則
- 9/7 第49回全日本女子剣道選手権大会（静岡県武道館）
〔県代表〕山田聖子
- 9/19 第58回福井県剣道大会（県立武道館）
県剣連功労賞 大嶋雅典 〔団体女子〕優勝 越前市 山田聖子、高原理江子、谷口典子
- 9/19 ねんりんピック石川（羽咋市体育館）
〔県代表〕松本敏夫 <次鋒として大活躍し、福井県チームは予選リーグ突破、ベスト16入>
- 9/20 市剣道連盟による最初の「木刀による剣道基本技稽古法」講習会を開催（吉野小体育館）
平成22年度第1回の級位審査会における事前審査として、県より認定を受けた市剣連会員の講師11名の参加協力を得て、講習会を開催する <対象は1級～3級受験者69名受講>
- 10/2～4 第65回千葉国民体育大会（館山運動公園体育館）
〔成年男子〕中堅 森岡裕一 〔成年女子〕先鋒 細川梨絵
- 10/23 第45回全日本居合道大会（新潟県）
〔県代表〕六段の部 西出和男 七段の部 角 裕幸 監督 玉村伸治
- 11/3 王子保スポーツ少年団が全日本剣道連盟の「少年剣道教育奨励賞」を受賞する。
<市剣道連盟においては、武生西剣道スポーツ少年団に次いで2団体目>
- 11/20 居合道七・六段審査会（東京都）
七段合格 玉村伸治 <県内でただ一人の居合道七段受有者となる>
- 12/19 第11回市少年少女交流剣道大会（国高小体育館）<インフルエンザ流行の兆しのため中止する>
- 3/20 第38回越前市少年少女剣道大会（市武道館）
<前回大会までは、市剣道連盟独自の行事として主催していたが、今回の大会から、越前市体育協会と共催となる>
〔連盟表彰事業〕第11回市少年少女交流剣道大会の席上にて予定をしていたが、大会中止により、本大会で表彰を併せて実施する

平成23年度

- 6/26 福井県知事杯 第8回福井県剣道選手権大会（今庄中体育館）
 [女子の部] 優勝 山田聖子 <2年連続5回目>
- 7/9・10 第46回北陸地区高専体育大会 剣道競技（市武道館）
 審判協力：市連盟会員12名
 [男子個人の部] 優勝 岸下優介 <福井高専・準会員>
- 7/16 第3回都道府県対抗女子剣道大会（東京都・日本武道館）
 [県代表] 中堅 山田聖子
- 7/24 第6回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
 優勝 西地区
- 7/31 '11県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
 [熟年男子の部] 三位 越前市B 西出和男、大嶋雅典、田中眞一
 [壮年男子の部] 三位 越前市A 辻慎二郎、中村圭三、宮川保則
 [成年女子の部] 優勝 越前市 堀端 愛、山田聖子、谷口典子
- 8/6 第53回全国教職員剣道大会（県立武道館）
 <平成4年全国中学校剣道大会以来となる全国規模の大会を本県で開催>
 [団体の部] 優勝 福井県 <全国初制覇>
 [女子個人の部] 三位 山田聖子 <優秀選手賞>
- 8/21 第24回福井県居合道大会（県立武道館）
 [団体戦] 二位 越前市A 西森英雄、辻崎正則、西出和男
 [個人戦] 初段以下の部 優勝 平山 聡 二位 田中恒夫
 二段の部 優勝 辻崎正則 二位 楠 敬宣
 五段の部 最優秀賞 西出和男
- 8/28 第40回福井県少年少女剣道錬成武生大会兼東日本大震災復興支援大会（市体育館）
 本大会も40回の節目を迎え、本年3月11日に大震災で被災された東北の少年剣士達を少しでも支援できないかと、本大会実行委員会等に諮り、今大会に限って参加各団体から参加費を徴収。その一部を義援金として、被災地の剣士達へ届くよう越前市に付託した。
- 9/18 第59回福井県剣道大会（県立武道館）
 [一般女子の部] 二位 越前市 山田聖子、和田克枝、谷口典子
 優秀選手賞 山田聖子 <第53回全国教職員剣道大会 女子個人の部三位>
- 9/25 第50回全日本女子剣道選手権（兵庫県立武道館）
 [県代表] 山田聖子 <一回戦を突破するも二回戦で三位入賞選手に惜敗>
- 10/1・2 県内遠征（三方町体育館）
 尾形理事長以下会員12名が参加し、三方地区剣連と合同稽古
- 10/16 ねんりんピック熊本2011（菊池市）
 [県代表] 次鋒 四ツ木善一
- 10/22 第46回全日本居合道大会（愛媛県武道館）
 [県代表] 五段の部 西出和男
 六段の部 角 裕幸
 七段の部 玉村伸治
- 11/3 武生南剣道スポーツ少年団が全日本剣道連盟の
 「少年剣道教育奨励賞」を受賞する
 <市剣道連盟においては、武生西剣道スポーツ少年団、王子保スポーツ少年団と3団体目>
- 11/27 故石黒内匠先生追善 越前市民剣道祭を開催する
 （市武道館）



左から二人目 玉村伸治、西出和男、角 裕幸

平成24年度

- 6/16・ 地方青少年剣道錬成大会（市武道館）
 17 講師：山本重美範士八段
 末平祐次教士八段
 市内中学生を対象に育成指導と錬成稽古
 市連盟会員も指導を受ける
- 6/24 福井県知事杯 第9回福井県剣道選手権大会
 （三方町体育館）
 [女子の部] 優勝 山田聖子 <3年連続6回目>
- 7/16 第4回全日本都道府県対抗女子剣道大会
 （東京都・日本武道館）[県代表] 中堅 山田聖子
- 7/28 第7回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
 優秀選手賞 山田聖子 <第53回全国教職員剣道大会 女子個人の部 三位>
 優勝 吉野地区
- 8/5 '12県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
 [熟年男子の部] 優勝 越前市A 尾形言成、日下博幸、松本敏夫
 [壮年男子の部] 三位 越前市A 岸下俊宏、中村圭三、宮川保則
- 8/12 第54回全国教職員剣道大会（山形市）
 [個人女子の部] 山田聖子（2回戦敗退）
- 8/19 第25回福井県居合道大会（県立武道館）
 [団体戦] 優勝 越前市A 長谷川翔平、辻崎正則、西出和男
 [個人戦] 三段の部 優勝 長谷川翔平
 二段の部 優勝 辻崎正則 二位 上田賢治
 初段の部 優勝 奥出江里 二位 平山 聡
- 8/26 第33回北信越国民体育大会 <剣道競技>（県立武道館）
 [成年女子] 優勝 福井県 先鋒 山田聖子 <岐阜国体出場権獲得>
- 9/2 福井県スポーツ少年団大会剣道競技（武生第一中学校体育館）
 主管：越前市剣道連盟 会員審判協力17名 <運営委員長を内藤嘉昭副理事長が務める>
- 9/2 第51回全日本女子剣道選手権大会（兵庫県立武道館）
 [県代表] 山田聖子 <剣道だより第77号に「大会に出場して」感想掲載>
- 9/9 全日本剣道連盟共催の「剣道指導法講習会」（県立武道館）
 全剣連講師：小坂達明範士八段 <大阪府> 約80名参加 <市剣連会員7名参加>
- 9/17 第60回福井県剣道大会（県立武道館）
 [一般女子の部] 三位 越前市 山田聖子、和田克枝、谷口典子
 優秀選手賞 山田聖子 <第33回北信越国民体育大会 成年女子団体優勝>
- 9/30～ 第67回国民体育大会 <ぎふ清流国体>
 10/2 （関市総合体育館）
 [成年女子] 四位 <史上初> 福井県
 <先鋒として山田聖子大活躍>
- 10/20 第47回全日本居合道大会（静岡県武道館）
 [県代表] 六段の部 西出和男 七段の部 角 裕幸
- 11/11 吉野剣道スポーツ少年団創立40周年記念剣道大会
 （吉野小学校体育館）
 来賓として、金嶋会長、堂前事務局次長
 式典、日本剣道形・居合道演武、
 OB中学生模範稽古、小学生風船割り



地方青少年錬成大会で指導する山本重美範士



平成24年度ぎふ清流大会 剣道競技会 関市総合体育館 平成24年9月30日～10月2日

平成25年度

- 5/26 第1回少年剣道育成大会（県立武道館）
[団体戦] 三位 王子保スポーツ少年団剣道部A
- 6/9 福井県知事杯 第10回福井県剣道選手権大会（越前町朝日体育館）
[女子の部] 優勝 山田聖子 <4年連続7回目> 三位 堀端 愛
- 7/15 第5回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会（東京・日本武道館）
[県代表] 中堅 山田聖子
<福井県は1回戦岩手県と対戦し1対2で敗退。山田聖子は引き分け>
- 7/28 第8回越前市民体育大会 剣道競技（市武道館）
優勝 西地区
- 8/4 '13県民スポーツ祭 剣道競技（県立武道館）
[熟年男子の部] 三位 越前市A 尾形言成、山本聰實、松本敏夫
[壮年男子の部] 二位 越前市A 辻 慎二郎、妙珍武夫、森岡裕一
[成年男子の部] 三位 越前市A 奥山 登、山田英典、和田真吾、朝倉匡哉、山本澄人
[成年女子の部] 三位 越前市A 山田聖子、和田克枝、谷口典子
- 8/12 第55回全国教職員剣道大会（和歌山県ビックホール）
[女子個人の部] ベスト8 山田聖子 <四回戦で敗退>
- 8/18 第26回福井県居合道大会
[団体戦] 優勝 越前市A 長谷川翔平、辻崎正則、松本敏夫
[個人戦] 五段 優良賞 松本敏夫、西出和男
三段の部 優勝 長谷川翔平 三位 辻崎正則
二段の部 二位 平山 聡
- 9/8 第52回全日本女子剣道選手権大会（兵庫県立武道館）
[県代表] 山田聖子
- 9/23 第61回福井県剣道大会（県立武道館）
県剣道功労賞 山田昭榮
優秀選手賞 山田聖子 <第67回国民体育大会成年女子団体 四位入賞>
- 9/29~ 第68回東京国民体育大会 <東京国体>（東京都武道館）
10/1 [成年女子] 先鋒 細川梨絵 中堅 山田聖子
- 10/12 第48回全日本居合道大会（別府市体育館）
[県代表] 六段の部 角 裕幸 七段の部 玉村伸治
- 11/3 平成25年度福井県実業団柔道・剣道大会（県立武道館）
剣道 [個人女子の部] 二位 谷口典子
- 11/10 第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会福井県予選会（鯖江市神明健康スポーツセンター）
[小学生団体予選の部] 三位 王子保スポーツ少年団剣道部
- 11/24 越前市剣道連盟創立60周年記念剣道大会（市武道館）
・演武披露 [日本剣道形] 打太刀 和田真吾 仕太刀 和田克枝 <夫婦で日本剣道形を披露>
[居合道] 西出和男、楠 敬宣、平山 聡、玉村伸治
・小中学生男女別選手権大会 中学生33名、小学生46名出場
・創立60周年記念祝賀会（鎌仁別荘）
来賓10名、会員50名出席
・連盟特別功労者表彰（9名）
- 11/30 平成25年度 女子伝達講習会（市武道館）
講師：森 宣子六段 山田聖子五段
- 2/16 中学生対象市競技力向上プロジェクト剣道教室 <市主催・連盟協力>（市武道館）
アスリート講師として 近本 巧教士七段 <愛知県警> 招致

特別寄稿

石黒内匠先生を偲ぶ

彦根市剣道連盟会長 教士七段 清水哲雄

故石黒内匠先生、教士七段。大正13年9月16日生が、平成22年10月12日ご逝去、86歳。先生とのお付き合いを通じて剣道を多く学んだ。先生は兜角攻めの強い豪快な剣捌きで、私は最後まで打たれ放しであった。今でも「内匠さ～ん」「お～哲ちゃん」が聞こえる。

先生が剣道に手を染められたのは、昭和10年頃に福井在住の叔父さんに当たる藤田善男氏によると、その昔耳にした。県立三国中学校の剣道部で活躍し、卒業の頃は剣道三段と稀に見る剣豪で鳴らした。当時は戦時下であり、剣道は肉を切らせて髓を絶つという実戦さながらの格闘技であった。剣道教師が不足していた時期であり、岩越 正 範士のご推薦により、剣道三段の石黒青年は北陸中学校の剣道教師に着任し生徒を鍛えた。昭和18年、19年の2ヶ年であったと思う。戦時中は、武生の御総社の例祭に武道を奉納する仕来りがあり、武生中学校、一般人の試合や武生高等女学校の薙刀の奉納があった。剣道では、国分 繁 五段、石川 流清 四段、石黒 内匠 三段が活躍し、女学校の柳原 慶子 薙刀教師の「一文字の乱れ、はじめ!!」の美声に聞き入ったものである。

戦後の一時期、早稲田大学の 大島 宏太郎 先生（昭和の宮本武蔵と言われた大島 治喜太 範士のご長男）が武生市教育委員会におられ、石黒先生は兄の如く慕っておられた。大島先生の柔らかい剣捌きに対して、石黒先生の豪快な剣捌きは対照的であった。

武道館建設には意欲的で畏友、笠原 武市長を督励し、地方都市には贅沢とも思える立派な武道館を完成し、先生は我が家の如く入り浸って県内外の後進の剣士を指導し、家庭よりも剣道を優先しているようであった。

石黒家の先祖は木曾義仲の重臣で、四大将の筆頭格であったと言われている。八百年の昔、平家を追って京へのぼる途中に北陸街道で負傷し、帰農帰郷したと奥様の 石黒 登志子 様から拝聴したことがある。剣に惹かれたのも先祖の血が流れているからなのでしょう。

石黒内匠先生

(略歴)

大正13年9月16日 武生市蓬莱町に生まれる
昭和16年 三国中学4年生で中退、家業を継ぐ
昭和28年 武生市剣道連盟理事長に就任
昭和46年 武生市体育協会理事長に就任
昭和52年 武生市剣道連盟副会長に就任
平成6年 武生市剣道連盟第3代会長に就任
平成18年 越前市剣道連盟相談役に就任
平成22年10月12日 86歳にて死去

(剣道歴)

昭和12年4月 三国中学に入学、剣道を始める
昭和17年 北陸中学(現北陸高校)の剣道教師として勤務
昭和27年6月 講和条約発効記念全国親善剣道大会に出場(西宮市)
昭和32年12月 剣道教士号取得
昭和39年5月 剣道七段取得
全日本剣道選手権大会
昭和30年、31年、32年、39年出場
全日本都道府県対抗剣道優勝大会
昭和28～32年、35～49年……選手14回
昭和56年、57年、59年……監督3回
国民体育大会
昭和30年、39～56年、58年……監督1回、選手19回
全国健康福祉祭(ねんりんピック)
平成6年10、11年……選手3回(福井大会優勝)

(表彰歴)

文部大臣表彰	昭和34年
武生市体育協会体育功労賞	昭和36年
福井県剣道連盟功労賞	昭和38年
武生市教育委員会教育功労賞	昭和41年
福井県体育指導委員協議会表彰	昭和43年
福井新聞社スポーツ功労賞	昭和43年
福井県体育協会体育功労賞	昭和46年
武生市政功労賞	昭和48年
福井県教育委員会体育功労賞	昭和53年
福井県政功労賞	昭和60年
全日本剣道連盟有功賞	平成9年
福井県剣道連盟特別功労賞	平成15年



第9回国体北信越ブロック予選(於 富山市 昭和29年7月1日)

先鋒 清水哲雄 中堅 石黒内匠 大将 南 貞吉

谷口正儀先生を偲ぶ

越前市剣道連盟会長 教士六段 金嶋 八郎

谷口先生とは長年に亘りご厚情を頂き、思い出もたくさんありますが、特に懐かしく思うのは、「全国健康福祉祭剣道交流大会」に参加したことです。平成7年3月末、私は勤めていた丹南青少年愛護センターを退職し、福井高専に勤務することになった頃です。4月の終わり頃だと思います。県剣道連盟より「ねりんピック島根大会」に出場して欲しいと連絡がありました。正直云って「ねりんピック」の事はあまり知りませんでした。聞いてみると武生から佐々木さん、谷口先生、私の3人が出場すると言うことでした。佐々木さんは2回目、谷口先生は3回目になります。他に嶺南から、武田先生、堤腰先生も参加しました。参加者は他種目も合わせて総勢120名位だと思います。バス3台に分乗し、北陸、名神、中国道を経て、4時頃に松江に着きました。途中、佐々木さんがトイレ休憩で足を挫くというハプニングがありました。旅館で5人がビールを飲みながら歓談したのが、懐かしく思い出されます。翌日は総合開会式が1時から行われ、各県毎に入場行進しました。終了後、夕方剣道種目の歓迎レセプションに出席し、1日が終わりました。2日目はいよいよ交流試合です。剣道は東出雲体育館で開催されました。結果は残念ながら予選敗退でした。

翌日、私と谷口先生以外の人は、急いで帰路に着きました。せっかく来たのに、残念でした。私は谷口先生と2人でゆっくり出雲大社にお参り、その近辺を散策してから午後のJRで帰路に着きました。大阪駅で谷口先生はお孫さんのところに行く為下車し、後は一人で武生に帰りました。何分「ねりんピック」は初めてとあって、高速バス、開会式、アトラクション、歓迎レセプション、交流大会、神社めぐり等が、強く印象に残りました。

それから2年後の平成9年、今度は「第10回山形大会」に出場することになりました。メンバーは、平井、山本、私、谷口、武田」の5名です。再び谷口先生とご一緒することになりました。今回は岩手県に勝ちましたが、熊本県に敗れ惜しくも予選敗退でした。2年後に福井で健康福祉祭が開催されると言う事で、田中一憲、藤塚、山田、堤腰の四先生も同行し、貸切の夜行寝台列車は大変な賑わいでした。

平成11年は福井県で福祉祭が開催されるので、県剣道連盟では2月になるとすぐに予選会を開き、16名の候補者を決定しました。地元の福井は2チーム出場でき、今度も谷口先生と同じチームになりました。不思議な縁を感じました。石川、滋賀、京都への県外遠征や武道館での合宿等の事務方を担当したのが谷口先生でした。剣道交流大会では、福井県Aチームが優勝、福井県Bチームが次勝というすばらしい成績で幕を閉じることができました。

平成12年大阪大会は11月に羽曳野市で行われました。福井県は前年度開催県ということで続けて出場することができました。選手選考の結果Bチームが出場することになり、またも谷口先生とご一緒することになりました。都合4回目です。合同稽古会では何十回となくご指導を頂き、列車やバスの旅では、いろいろと楽しい語らいの時を共にしました。本当に貴重な体験をさせて頂きました。

懐かしい思い出に浸ると共に先生のご冥福をお祈り申し上げます。

谷口正儀先生
(略歴)

大正12年1月9日 石川県能美郡寺井町に生まれる
昭和18年3月 旧 京都高等蚕糸学校卒業
昭和18年 大日本蚕糸統制会社に就職
昭和18年～23年 軍隊入隊、外蒙古抑留
昭和23年 福井県庁入庁
昭和54年 同上 定年退職
昭和55年 武生市武道館剣道指導員
昭和56年～平成6年 福井県剣道連盟常任理事(広報担当)
昭和62年～平成6年 武生市剣道連盟副会長に就任
平成7年 武生市剣道連盟相談役に就任
平成24年6月4日 89歳にて死去

(剣道歴)

昭和23年 福井県庁剣道部に入部
昭和50年5月 剣道七段取得
昭和51年5月 剣道教士号取得
全日本都道府県対抗剣道優勝大会
昭和46年49年52年…………… 3回出場
全日本東西対抗剣道大会
昭和51年福岡県大会…………… 1回出場
国民体育大会
昭和48年、53年、60～63年…………… 5回出場
全国健康福祉祭(ねりんピック)
平成元年、4年、7年、9年、11、12年…………… 6回出場

(表彰歴)

武生市体育協会体育功労賞 昭和47年
福井県剣道連盟功労賞 昭和52年
福井県体育協会体育功労賞 昭和57年
武生市教育委員会教育功労賞 平成元年
武生市政功労賞 平成6年
武生市剣道連盟特別功労者賞 平成11年
全日本剣道連盟有功賞 平成14年



谷口正儀 佐々木庄一郎 金嶋八郎

資 料 編

1	新春奉納試切り大会演武者	32 P
2	越前市体育大会剣道競技成績	32 P
3	市民剣道祭成績	33 P
4	福井県少年少女剣道錬成武生大会成績	34 P
5	越前市少年少女交流剣道大会成績	34 P
	・越前市少年少女合同交流稽古会 (4月)	
	・越前市少年少女合同交流剣道大会 (12月)	
	・越前市少年少女剣道大会 (3月)	
6	称号・昇段者名列	36 P
7	級位審査会 年度別推移	37 P
8	役員名列・連盟選出役員等名列・会員名列	38 P
9	表 彰	40 P
	・会員の表彰	
	・少年剣道育成事業による表彰	
10	物故者名列	44 P
	【 越前市剣道連盟規約 】	45 P

1 新春奉納試切り大会演武者

回数	年	全日本剣道形		全剣連居合	
		打太刀	仕太刀		
49	平成15年	尾形 言成	山本 仁	玉村 伸治	楠 宏彰
50	平成16年	大嶋 雅典	朝倉 匡哉	田中 克枝	橋本 博幸
51	平成17年	尾形 言成	与佐岡 晃	玉村 伸治	—
52	平成18年	和田 真吾	和田 克枝	玉村 伸治	角 裕幸
53	平成19年	玉村 伸治	日下 博幸	松本 敏夫	西出 和男
54	平成20年	井上 幹男	田中 基恭	角 裕幸	大嶋 雅典
55	平成21年	森岡 裕一	和田 真吾	民谷 秀夫	楠 宏彰
56	平成22年	大嶋 雅典	万所 央	西出 和男	角 裕幸
57	平成23年	中村 圭三	朝倉 匡哉	玉村 伸治	楠 宏彰
58	平成24年	大嶋 雅典	日下 博幸	辻崎 正則	楠 敬宣
59	平成25年	山本 澄人	高橋 滋	玉村 伸治	大嶋 雅典
60	平成26年	山田 昭榮	辻 慎二郎	松本 敏夫	西出 和男

2 越前市体育大会剣道競技成績

武生市民体育大会 剣道競技 成績

回数	年度	期 日	場 所	区分	優勝	次勝	三位	三位	備 考
50	平成15年度	7月6日	吉野小 体育館	1部	西	南	吉野		9チーム参加
				2部	神山	北日野	大虫		
51	平成16年度	7月25日	市武道館	1部	西	南	王子保		10チーム参加
				2部	神山	大虫	北日野		
52	平成17年度	7月24日	〃	—	神山	南	西	吉野	9チーム参加 1部2部制廃止、総合点数制廃止 種目別成績制となる

越前市民体育大会 剣道競技 成績

回数	年度	期 日	場 所	区分	優勝	次勝	三位	三位	備 考
1	平成18年度	7月23日	市武道館	—	南	西 B	神山	味真野	9チーム参加 競技要綱改正 各地区何チームでも参加可能
2	平成19年度	7月22日	〃	—	南	西 B	西 A		9チーム参加
3	平成20年度	7月20日	〃	—	西 B	南	神山	王子保	8チーム参加
4	平成21年度	7月26日	〃	—	西	王子保	神山	南	7チーム参加 各地区1チームのみ参加 可能に変更
5	平成22年度	7月25日	〃	—	西	南	国高	神山	8チーム参加
6	平成23年度	7月24日	〃	—	西	吉野	国高	神山	7チーム参加
7	平成24年度	7月29日	〃	—	吉野	西	王子保	神山	8チーム参加
8	平成25年度	7月28日	〃	—	西	神山	吉野	王子保	8チーム参加

3 市民剣道祭成績

年 度	期 日	優 勝		次 勝	三 位	
平成15年度	11月16日	武生A		武生E	鯖江	南条
	50周年記念大会	山田・和田・山本 ・山本・森岡		田中・橋本・宮下 ・大嶋・田中	蓑輪・大下・畑・徳 本・藤田	能美・城野・西村・ 青木・黒
平成16年度	11月6日	松本道場		クワトロブーム	中村家	
		田中・岸下・大嶋		谷口・手賀・山田	白崎・山本・中村	
平成17年度	11月27日	池田		武生C	神・大	
		廣田・白崎・和田		岸下・山本・宮川	田中・大嶋・田中	
平成18年度	11月26日	良いチーム		スーパーセリカ	チーム大嶋	
		田中・岸下・宮川		平山・楠・白崎	押田・和田・大嶋	
平成19年度	10月28日	優生		礼節	武士道	
		山田・朝倉・中村		田中・宮川・松本	和田・内藤・田中	
平成20年度	10月19日	武神		マリッジブルー	楠組	
		辻・井上・宮下		田中・森岡・大嶋	関・岸下・楠	
平成21年度	12月6日	市武道館落成30周年記念として、会員の資質向上を目的に「木刀による剣道基本技稽古法」の講習会を開催した。講師；森岡裕一				
平成22年度	12月5日	男前		武士の五文	野武士	
		楠・山下・井上・松本・大嶋		平山・田中・辻・ 尾形・藤岡	和田・万所・宮川・山下・徳橋	
平成23年度	11月27日 石黒先生追善	Aチーム		Eチーム	Gチーム	
		山田・日下・山本		松本・井上・田中	藤岡・辻・和田	
平成24年度	11月25日	松中梅		西OB	チーム高橋	
		梅原・中村・松本/山下		辻・山下・宮川	田中・高橋・井上	
平成25年度	11月24日 60周年記念大会	小学生男	水上晴貴（王）	中西海斗（王）	牧野 歩（国）	中村拓未（王）
		小学生女	山下真奈（王）	宇野しずく（王）	西出光里（神）	目黒巴子（神）
		中学生男	貢 駿登（今庄）	山下優也（武六）	京藤尚輝（武一）	道上隼登（武二）
		中学生女	加藤七海（武一）	藤井涼香（武六）	徳嶋沙恵（武一）	—

4 福井県少年少女剣道錬成武生大会成績

回数	年度	期日	優勝	次勝	三位	備考
32	平成15年度	8月17日	鯖江泰成館道場	敦賀剣道スポーツ少年団	国高剣道スポーツ少年団A 豊剣道教室	42チーム 個人330名
33	平成16年度	8月22日	敦賀剣道スポーツ少年団	鯖江剣道スポーツ少年団	国高剣道スポーツ少年団A 鯖江泰成館道場	46チーム 個人292名
34	平成17年度	8月28日	鯖江泰成館道場	栗野剣道教室	敦賀剣道スポーツ少年団 武道学園剣道教室	44チーム 個人270名
35	平成18年度	8月27日	今庄剣道スポーツ少年団	鯖江剣道スポーツ少年団	鯖江泰成館道場 木田剣道スポーツ少年団	42チーム 個人230名
36	平成19年度	8月19日	武道学園剣道教室	きらやま剣道教室	河和田剣友会 福井東部少年剣道教室	38チーム 個人227名
37	平成20年度	8月24日	敦賀剣道スポーツ少年団	五常館	武道学園剣道教室 豊剣道教室	37チーム 個人235名
38	平成21年度	8月23日	木田剣道スポーツ少年団	五常館	鯖江剣道スポーツ少年団 福井東部少年剣道教室	38チーム 個人241名
39	平成22年度	8月29日	敦賀剣道スポーツ少年団	武道学園剣道教室	鯖江剣道スポーツ少年団 丸岡剣道スポーツ少年団	41チーム 個人236名
40	平成23年度	8月28日	鯖江志士樹館道場	鯖江剣道スポーツ少年団	福井少年剣道クラブ 丸岡剣道スポーツ少年団	39チーム 個人229名
41	平成24年度	8月26日	木田剣道スポーツ少年団	福井養正館	鯖江志士樹館道場 豊神館道場	35チーム 個人240名
42	平成25年度	8月25日	鯖江志士樹館道場	木田剣道スポーツ少年団	福井養正館 松岡少年剣道教室	37チーム 個人244名

※ 第32回大会(平成15年度) 武生市剣道連盟創立50周年記念・武生市武道館落成25周年記念

※ 第40回大会(平成23年度) 東日本大震災復興支援大会

5 越前市少年少女交流剣道大会成績

越前市少年少女合同交流稽古会 (4月)

回数	年度	期日	開催場所	指導者数(人)	小学生数(人)
12	平成15年度	4月20日	武生西小学校体育館	20	90
13	平成16年度	4月18日	国高小学校体育館	13	93
14	平成17年度	4月17日	〃	20	70
15	平成18年度	4月16日	〃	14	60
16	平成19年度	4月22日	〃	16	59
17	平成20年度	4月27日	〃	17	60
18	平成21年度	4月26日	武生南小学校体育館	22	85
19	平成22年度	4月25日	武生吉野小学校体育館	18	80
20	平成23年度	4月24日	大虫小学校体育館	14	95
21	平成24年度	4月22日	国高小学校体育館	21	76
22	平成25年度	4月28日	王子保小学校体育館	23	71

越前市少年少女合同交流剣道大会 (12月)

回数	年度	期日	開催場所	指導者数(人)	参加人数(人)	優勝	次勝	三位	
4	平成15年度	12月23日	武生西小学校体育館	24	小中 130	神山	王子保	武生西	国高
5	平成16年度	12月23日	〃	24	小中 150	国高	神山	武生西	武生南
6	平成17年度	12月23日	越前市体育館	19	小中 150	神山	武生西	国高	武生南
7	平成18年度	12月23日	〃	27	小中 130	武生西	武生南	神山	国高
8	平成19年度	12月24日	〃	33	小中 136	武生南	武生西	神山	王子保
9	平成20年度	12月23日	越前市武道館	25	小 80	武生南	吉野	今立	国高
10	平成21年度	12月20日	国高小学校体育館	インフルエンザのため中止					
11	平成22年度	12月19日	〃	インフルエンザのため中止					
12	平成23年度	12月18日	越前市体育館	25	小 90	神山	武生南	王子保	国高
13	平成24年度	12月16日	越前市武道館	26	小 90	神山	王子保	国高	武生南
14	平成25年度	12月22日	〃	24	小 80	国高	王子保	神山	今立

越前市少年少女剣道大会 (3月)

回数	年度	期日	開催場所	運営会員数(人)	参加選手数(人)	備考
31	平成15年度	3月14日	越前市武道館	27	145	
32	平成16年度	3月13日	〃	32	121	
33	平成17年度	3月12日	〃	30	105	
34	平成18年度	3月11日	〃	30	98	
35	平成19年度	3月9日	〃	25	103	
36	平成20年度	3月8日	〃	31	103	
37	平成21年度	3月14日	〃	34	112	H21年度から市体協共催
38	平成22年度	3月13日	〃	32	101	
39	平成23年度	3月11日	〃	32	95	
40	平成24年度	3月10日	〃	24	101	
41	平成25年度	3月9日	〃	33	103	

6 称号・昇段者名列

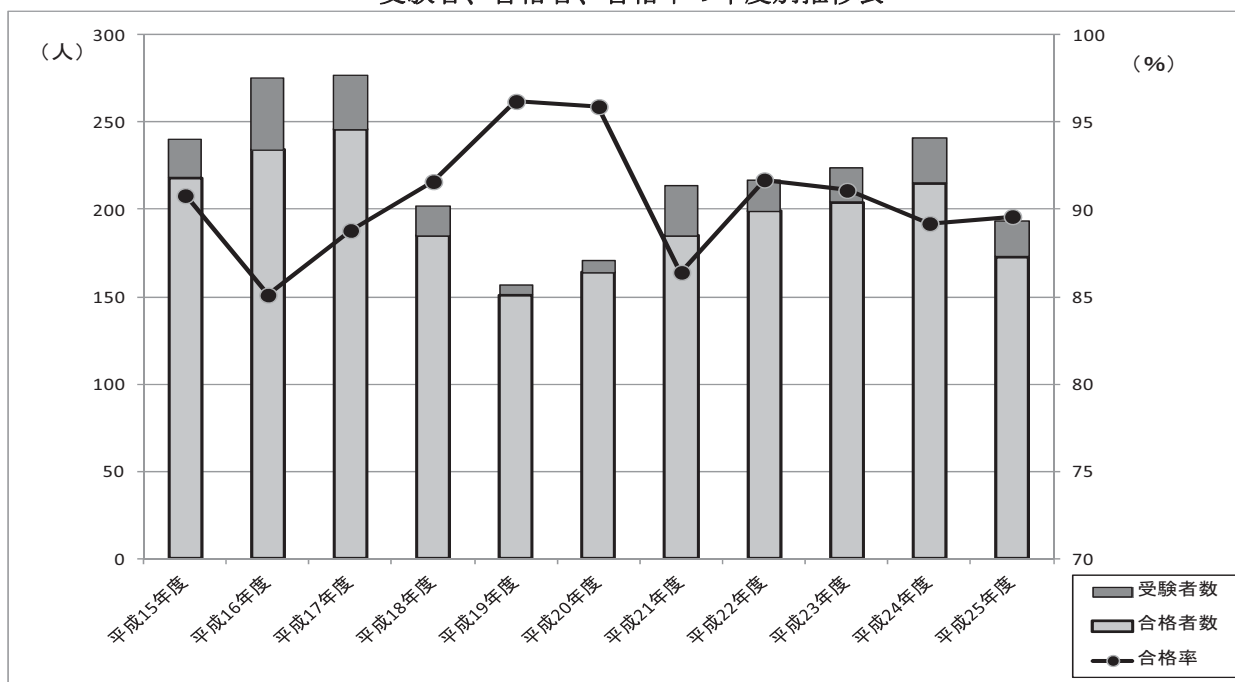
年度	区分	剣 道		居 合 道	
		称号・段位	氏 名	称号・段位	氏 名
平成15年度		教士	宮川保則	五段	西出和男
		六段	大嶋雅典	参段	大嶋雅典
		四段	橋本博幸	初段	刀祢誠志
		四段	田中克枝	初段	堀端暢宏
		四段	田中基恭	初段	橋本博幸
		参段	山田剛広	初段	田中克枝
		式段	與佐岡真二		
		式段	堀端勇介		
平成16年度		教士	尾形言成	六段	玉村伸治
		錬士	大嶋雅典		
		錬士	與佐岡晃		
		四段	廣田暢		
		四段	山田祥広		
		四段	大谷茂和		
		式段	白崎雅人		
平成17年度		五段	瓜生有具	錬士	玉村伸治
		五段	永坂重几	四段	角裕幸
		五段	玉村伸治	初段	武内忠男
		四段	堂前光夫		
		四段	岸本修学		
平成18年度		五段	日下博幸	式段	武内忠男
		四段	高原理江子		
		式段	安久乃里子		
平成19年度		五段	山田昭榮	四段	大嶋雅典
		五段	手賀薫		
		五段	田中基恭		
		四段	岸下俊宏		
		四段	山田英典		
		四段	山田聖子		
		式段	平山聡		
平成20年度		初段	中谷実伸		
		七段	森岡裕一		
		六段	和田真吾		
		五段	山田祥広		
		四段	山下篤史		
		式段	中谷実伸		
平成21年度		初段	吉田久代		
		初段	豊田修武		
		七段	大嶋雅典	五段	民谷秀夫
		錬士	和田真吾	五段	角裕幸
		六段	中村圭三	式段	堀端暢宏
		六段	万所央		
		六段	朝倉匡哉		
		四段	山本晋也		
平成22年度		参段	平山聡		
		式段	山下博士		
		式段	吉田久代		
		教士	森岡裕一	七段	玉村伸治
		六段	谷口典子	五段	楠宏彰
		五段	山本澄人	初段	辻崎正則
		参段	丸山志織	初段	平山聡
		初段	橋本一峰	初段	楠敬宣

年度	区分	剣 道		居 合 道	
		称号・段位	氏 名	称号・段位	氏 名
平成23年度		教士	大嶋 雅典	五段	大嶋 雅典
		錬士	万所 央	貳段	辻崎 正則
		錬士	谷口 典子	貳段	楠 敬宣
		六段	日下 博幸	初段	上田 賢治
		参段	中谷 実伸	初段	平山 勝
		貳段	橋本 一峰	初段	花島 常善
平成24年度				初段	田中 恒夫
		五段	岸下 俊宏	教士	玉村 伸治
		五段	山田 英典	貳段	田中 恒夫
		五段	山田 聖子	貳段	花島 常善
		参段	梅原 保高	貳段	上田 賢治
		参段	楠 敬宣	貳段	平山 勝
		参段	山下 博士	初段	奥出 江里
平成25年度		貳段	豊田 修武		
		錬士	日下 博幸	参段	楠 敬宣
		六段	山田 昭榮	参段	辻崎 正則
		六段	辻 慎二郎	貳段	平山 聡
		五段	和田 克枝		
		四段	日下 太一		
	四段	奥山 登			
	貳段	山崎 友輔			

7 級位審査会 年度別推移

年 度	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	計
受験者数(人)	240	275	277	202	157	171	214	217	224	241	193	2,411
合格者数(人)	218	234	246	185	151	164	185	199	204	215	173	2,174
合格率(%)	90.8	85.1	88.8	91.6	96.2	95.9	86.4	91.7	91.1	89.2	89.6	90.2

受験者、合格者、合格率の年度別推移表



8 役員名目・連盟選出役員等名目・会員名目

武生市剣道連盟 役員名目

年 度	連盟会長	副会長	理事長	副理事長	事務局長
H15～16	石 黒 内 匠	永 坂 重 几 藤 岡 文 男	松 本 敏 夫	尾 形 言 成 内 藤 嘉 昭	宮 川 保 則
(※) H17	〃	〃	〃	〃	〃

(※) 平成17年度は市町村合併の為、任期は1年

越前市剣道連盟 役員名目

H18～19	金 嶋 八 郎	永 坂 重 几 山 田 昭 榮 藤 岡 文 男	松 本 敏 夫	尾 形 言 成 内 藤 嘉 昭	宮 川 保 則
H20～21	〃	〃	〃	〃	〃
H22～23	〃	山 田 昭 榮 藤 岡 文 男 松 本 敏 夫	尾 形 言 成	内 藤 嘉 昭 宮 川 保 則	玉 村 伸 治
H24～25	〃	〃	〃	〃	〃

福井県剣道連盟役員 (市剣連選出)

顧 問	石 黒 内 匠	(H17～H23)	
相 談 役	石 黒 内 匠	(H15、H16)	
参 与	金 嶋 八 郎	(H17～H25)	
常任理事	松 本 敏 夫	(H15～H23)	
理 事	関 博 之	(H15～H19)	内 藤 嘉 昭 (H15～H21)
〃	宮 川 保 則	(H20～H25)	尾 形 言 成 (H22、H23)
評 議 員	玉 村 伸 治	(H15～H16) (H22～H23)	与 佐 岡 晃 (H15～H16)
〃	宮 川 保 則	(H15～H19)	田 中 眞 一 (H17～H23)
〃	西 出 和 男	(H17～H23)	森 岡 裕 一 (H17)
〃	堂 前 光 夫	(H20～H21)	
〃	松 本 敏 夫	(H24～H25)	尾 形 言 成 (H24～H25)

福井県剣道連盟役員 (県剣連選出)

監 事	中 西 雅 夫	(H20～H23)	
審 議 員	藤 岡 文 男	(H24～H25)	
副 会 長	中 西 雅 夫	(H24～H25)	
理 事	宮 川 保 則	(H24～H25)	(副事業部長)
〃	西 出 和 男	(H22～H25)	(居合道委員長)
評 議 員	森 岡 裕 一	(H20～H23)	(中体連選出)
専 門 委 員	玉 村 伸 治	(H20、H21)	(居合道)
〃	谷 口 典 子	(H20～H23)	(女性および少年剣道)

越前市(武生市)体育協会役員 (市剣連選出)

代 議 員	与 佐 岡 晃	(H15～H17)	田 中 眞 一 (H15～H19)
	堂 前 光 夫	(H18～H19)	
代 議 員	金 嶋 八 郎	(H20～H25)	
	松 本 敏 夫	(H20～H21)	尾 形 言 成 (H22～H25)

越前市(武生市)民体育大会役員 (市剣連選出)

実 行 委 員	松 本 敏 夫	(H15～H19)	大 嶋 雅 典 (H15～H25)
---------	---------	-----------	-------------------

越前市剣道連盟会員名目 (平成 26 年 3 月 31 日)

氏名	剣道	居合道	地区
相木 七良右門	参段		西
朝倉 匡哉	六段		南
安久 弥兵衛	参段		吉野
井上 竜義	参段		王子保
井上 幹男	教士七段		神山
上野 吉弘	参段		西
梅原 保高	参段		神山
瓜生 有具	五段		王子保
大久保 健一	参段		大虫
大嶋 雅典	教士七段	五段	大虫
岡田 孝一	五段		国高
岡田 直也	初段		国高
尾形 言成	教士七段		北新庄
奥出 江里		初段	大虫
奥山 登	四段		神山
長田 豊	教士五段	参段	王子保
角 裕幸	初段	五段	神山
加藤 覚太郎	教士七段	参段	東
金嶋 八郎	教士六段		東
鎌田 真之	参段	四段	東
河嶋 衛	参段		西
岸下 俊宏	五段		南中山
岸本 修	四段		吉野
北野 哲広	四段		西
日下 太一	四段		神山
日下 博幸	錬士六段		王子保
楠 敬宣	参段	参段	神山
楠 宏彰	四段	五段	神山
倉橋 良滋	五段	参段	大虫
小泉 宗昭	四段		王子保
小島 義彦	参段		王子保
佐々木 克己	参段		東
佐々木 信治	参段		大虫
清水 哲雄	教士七段		彦根市
城野 優生	参段		南
関 博之	教士七段	参段	王子保
関 学	参段		南
高木 良平	初段		大虫
高橋 滋	五段	四段	越前町
高原 理江子	四段		国高
多賀谷 正順	五段	四段	西
武内 忠男	参段	参段	北日野
田中 眞一	五段	五段	神山
田中 恒夫		参段	神山
田中 基恭	五段		神山
谷口 正	参段		王子保
谷口 典子	錬士六段		南
玉村 伸治	五段	教士七段	吉野
民谷 秀夫	参段	五段	大虫
辻 慎二郎	六段		西
辻 崎正則		参段	鯖江市
手嶋 泰伸	参段		南
堂前 光夫	四段	参段	西
徳橋 逸也	教士五段	四段	南
内藤 嘉昭	教士七段		西
永坂 重几	五段		大虫

五十音順

氏名	剣道	居合道	地区
中谷 実伸	参段		坂井市
中西 雅夫	参段		神山
中野 芳樹	参段		国高
中村 圭三	六段		西
中山 新太郎	四段		大虫
奈良 俊幸			吉野
西出 和男	四段	五段	神山
野川 多美子	参段		味真野
野口 重雄	五段		西
野坂 卓司	参段		大虫
萩原 誠治	教士五段	初段	神山
萩原 正昭	参段		神山
橋本 栄二	四段		南
橋本 一峰	参段		国高
橋本 修一	参段		南越前町
橋本 博幸	四段	初段	西
花島 常善		参段	国高
平山 聡	参段	参段	西
平山 勝		参段	西
藤井 信太郎	参段		東
藤岡 文男	教士七段	参段	吉野
細川 真弓	参段		南
堀端 暢宏		参段	吉野
堀端 愛	参段		吉野
松本 敏夫	教士七段	五段	神山
丸山 晃生	四段		吉野
丸山 志織	参段		吉野
万所 央	錬士六段		王子保
三崎 良治	五段	参段	東
源 善浄	参段		王子保
宮川 保則	教士七段		西
宮下 孝典	五段		北日野
妙珍 武夫	四段		国高
六戸部 信淳	教士五段		西
森岡 裕一	教士七段		南
山崎 友輔	参段		服間
山下 篤史	四段		王子保
山下 博士	参段		西
山田 昭榮	六段		栗田部
山田 聖子	五段		栗田部
山田 剛広	参段		西
山田 英典	五段		栗田部
山田 祥広	五段		南
山本 聰實	四段		西
山本 仁	五段		大虫
山本 晋也	四段		西
山本 澄人	五段		味真野
山本 哲司	参段		西
山本 なつみ			国高
与佐岡 晃	錬士五段	四段	鯖江市
与佐岡 真二	参段		鯖江市
吉岡 四郎一	初段		国高
四ツ木 善一	錬士六段		南越前町
和田 克枝	五段	初段	西
和田 真吾	錬士六段		西

9 表彰

【会員の表彰】

年 度	期 日	種 別		氏 名				備 考
平成15年度	7月6日	市体協	体育功労賞	西出 和男				第50回 武生市民体育大会
	9月23日	県剣連	特別功労賞	石黒 内匠				第51回 福井県剣道大会 (県剣連創立50周年)
			少年剣道 育成功労賞	瓜生 有具 源 善浄				
11月16日	市剣連	特別功労賞	六戸部信淳 高山 卓三 小泉 宗之 中村 正 宇野喜久二 金嶋 八郎 瓜生 有具 源 善浄 遠藤 光春 永坂 重几 徳橋 逸也 堂前 光夫				武生市剣道連盟創立50周年	
平成16年度	7月25日	市体協	体育功労賞	大嶋 雅典				第51回 武生市民体育大会
		県剣連	剣連功労賞	高山 卓三				第52回 福井県剣道大会
平成17年度	7月24日	市体協	体育功労賞	中野 芳樹				第52回 武生市民体育大会
	9月23日	県剣連	剣連功労賞	萩原 誠治				第53回 福井県剣道大会
平成18年度	7月23日	市体協	体育功労賞	岡田 孝一				第1回 越前市民体育大会
	9月23日	県剣連	剣連功労賞	尾形 言成				第54回 福井県剣道大会
平成19年度	9月23日	県剣連	剣連功労賞	倉橋 良滋				追悼 岩越 正先生33回忌 第55回 福井県剣道大会
			優秀選手賞	山田 聖子				
	11月3日	全剣連	剣道有功賞	金嶋 八郎				
平成20年度	9月23日	県剣連	剣連功労賞	内藤 嘉昭				第56回 福井県剣道大会
	11月3日	市教委	教育功労賞	金嶋 八郎				
平成21年度	9月20日	県剣連	剣連功労賞	宮川 保則				第57回 福井県剣道大会
平成22年度	7月25日	市体協	体育功労賞	宮川 保則				第5回 越前市民体育大会
	9月19日	県剣連	剣連功労賞	大嶋 雅典				第58回 福井県剣道大会
	11月3日	全剣連	少年剣道 教育奨励賞	王子保スポーツ少年団				
平成23年度	9月19日	県剣連	優秀選手賞	山田 聖子				第59回 福井県剣道大会
	11月3日	全剣連	少年剣道 教育奨励賞	武生南剣道スポーツ少年団				
平成24年度	7月23日	市体協	優秀選手賞	山田 聖子				第7回 越前市民体育大会
	9月17日	県剣連	剣連功労賞	山田 聖子				第60回 福井県剣道大会
平成25年度	9月23日	県剣連	剣連功労賞	山田 昭榮				第61回 福井県剣道大会
			優秀選手賞	山田 聖子				
	11月24日	市剣連	特別功労賞	山田 昭榮 民谷 秀夫 山本 聰實 藤岡 文男 田中 眞一 長田 豊 萩原 誠治 三崎 良治 玉村 伸治				越前市剣道連盟創立 60周年

【少年剣道育成事業による表彰】

<平成15年度>

連盟会長賞

[個人]

西 4年男子 中村 武大 第32回県錬成武生大会優勝
 西 6年女子 中村 美花 第32回県錬成武生大会優勝
 南 5年男子 宮澤 尚己 第32回県錬成武生大会優勝
 南 5年女子 牧野 美希 第32回県錬成武生大会優勝

[団体]

武生高校男子剣道部 第49回福井県剣道大会優勝

連盟特別賞

[個人]

国高 5年女子 児玉 萌 第32回県錬成武生大会2位
 神山 6年女子 川端 りえこ 第32回県錬成武生大会2位
 神山 4年男子 渡辺 翔太 第32回県錬成武生大会3位
 南 4年男子 田中 純 第32回県錬成武生大会3位
 神山 4年男子 古村 茂高 第32回県錬成武生大会3位
 国高 5年男子 河上 光治 第32回県錬成武生大会3位
 神山 4年女子 増田 成美 第32回県錬成武生大会3位
 南 5年女子 岩尾 知佳 第32回県錬成武生大会3位
 一中 3年 石黒 一麻 県中体連春季大会3位
 一中 1年 廣田 尚大 県中体連夏季大会2位
 三中 1年 児玉 峻 県中体連夏季大会3位

[団体]

国高剣道スポーツ少年団 第32回県錬成武生大会3位
 武生高校女子剣道部 県高体連春季大会3位
 第49回福井県剣道大会3位

<平成16年度>

連盟会長賞

[個人]

南 6年女子 牧野 美希 第33回県錬成武生大会優勝
 啓新高 山口 美由貴 県高体連春季大会優勝

[団体]

武生高校男子剣道部 県高体連春季選手権大会優勝
 県高体連新人戦優勝
 第50回福井県剣道大会3位

連盟特別賞

[個人]

南 4年以下男子 中野 拳斗 第33回県錬成武生大会3位
 西 4年以下男子 佐々木 将紀 第33回県錬成武生大会3位
 吉野 5年女子 永宮 佳代子 第33回県錬成武生大会3位
 一中 1年男子 前田 将崇 県中体連夏季大会3位

[団体]

国高剣道スポーツ少年団 第33回県錬成武生大会3位
 武生第一中学校男子剣道部 県中体連春季大会2位
 県中体連夏季大会3位

<平成17年度>

連盟会長賞

[個人]

南 5年男子 田中 純 第34回県錬成武生大会優勝

[団体]

武生高校男子剣道部 県高体連春季選手権大会優勝
 県高体連春季総体3位

連盟特別賞

[個人]

神山 6年男子 道場 丈典 第34回県錬成武生大会3位
 一中 2年女子 堀端 愛 県中体連夏季大会3位
 一中 2年女子 中村 美花 県中体連夏季大会3位
 一中 全学年男子 杉本 貴紀 県中体連夏季大会3位
 一中 全学年男子 廣田 尚大 県中体連夏季大会3位

<平成18年度>

連盟会長賞

[個人]

南 5年男子 坪川 翔 第35回県錬成武生大会優勝

連盟特別賞

[個人]

南 6年男子 城野 優生 第35回県錬成武生大会2位
 南 5年男子 阪下 義仁 第35回県錬成武生大会3位
 一中 女子 堀端 愛 県中体連夏季大会3位
 三中 男子 河上 光浩 第1回県中体連秋季新人大大会3位
 武生高 男子 齊藤 一浩 県高体連春季総体2位

[団体]

武生第二中学校女子剣道部 県中体連夏季大会3位
 武生第三中学校男子剣道部 第1回県中体連秋季新人大大会3位
 武生高校男子剣道部 県高体連春季総体3位
 県高体連新人戦3位

<平成19年度>

連盟会長賞

[個人]

南 4年以下男子 山田 遼馬 第36回県錬成武生大会優勝
 二中 全学年女子 増田 成美 第2回県中体連秋季新人大大会優勝

連盟特別賞

[個人]

西 5年男子 西森 英雄 第1回県ジュニア育成強化大会3位
 南 5年男子 宮下 将伍 第36回県錬成武生大会3位
 南 5年女子 鳥取 茉奈 第36回県錬成武生大会2位

[団体]

武生高校男子剣道部 県高体連春季選手権大会3位
 県高体連春季総体3位

<平成20年度>

連盟会長賞

[個人]

南 5年男子 山田 遼馬 第37回県錬成武生大会優勝

<平成21年度>

連盟会長賞

[個人]

南 6年女子 宮下 夏季 第38回県錬成武生大会優勝

[団体]

武生第一中学校男子剣道部 第4回県中体連秋季新人大会優勝

<平成22年度>

連盟会長賞

[個人]

南 5年男子A 笠島 渉 第39回県錬成武生大会優勝

南 6年男子A 佐々木 俊記 第39回県錬成武生大会優勝

吉野 6年男子B 堀端 海斗 第39回県錬成武生大会優勝

今立 6年女子 小林 知可 第39回県錬成武生大会優勝

<平成23年度>

連盟会長賞

[個人]

吉野 6年男子A 京藤 尚輝 第40回県錬成武生大会優勝

福井高 男子 岸下 優介 第46回北陸地区高等専門学校体育大会優勝

<平成24年度>

連盟会長賞

[団体]

武生第一中学校男子剣道部 第7回県中体連秋季新人大会優勝

<平成25年度>

連盟会長賞

[個人]

王子保 4年女子 井村 歩加 第7回県ジュニア育成強化大会優勝

連盟特別賞

[個人]

南 4年男子 堀部 尚大 第37回県錬成武生大会2位

南 5年女子 宮下 夏季 第37回県錬成武生大会2位

神山 4年女子 安井 梨乃 第37回県錬成武生大会3位

一中 1年男子 大橋 祐也 第3回県中体連秋季新人大会3位

[団体]

武生高校女子剣道部 県高体連新人戦3位

連盟特別賞

[個人]

南 5年男子 佐々木 俊記 第38回県錬成武生大会2位

今立 4年男子 養輪 朋哉 第38回県錬成武生大会3位

国高 4年男子 釜田 龍希 第38回県錬成武生大会3位

吉野 4年男子 京藤 尚輝 第38回県錬成武生大会3位

南 6年男子 山田 遼馬 第38回県錬成武生大会3位

西 4年女子 藤貫 晴香 第38回県錬成武生大会3位

今立 5年女子 小林 知可 第38回県錬成武生大会3位

二中 1年女子 鳥取 茉奈 県中体連夏季大会3位

啓新高 女子 堀端 愛 第6回県知事杯選手権大会2位

[団体]

武生高校女子剣道部 県高体連新人戦3位

連盟特別賞

[個人]

吉野 4年男子 木村 友亮 第39回県錬成武生大会2位

吉野 5年男子 紘谷 鉄平 第39回県錬成武生大会2位

吉野 6年男子A 紘谷 銀児 第39回県錬成武生大会2位

王子保 4年男子 中西 海斗 第39回県錬成武生大会3位

南 5年男子 道上 隼豊 第39回県錬成武生大会3位

今立 5年男子 養輪 朋哉 第39回県錬成武生大会3位

二中 1年女子 宮下 夏季 第5回県中体連秋季新人大会3位

[団体]

武生第一中学校男子剣道部A 第58回県剣道大会(中・高校)2位

武生第一中学校男子剣道部 県中体連夏季大会3位

武生高校男子剣道部 県高体連春季選手権大会3位

武生高校男子剣道部C 県民スポーツ祭(高校の部)3位

連盟特別賞

[個人]

南 4年男子 山田 将稀 第40回県錬成武生大会3位

吉野 6年男子 紘谷 鉄平 第40回県錬成武生大会3位

今立 6年女子 山崎 和琴 第40回県錬成武生大会3位

一中 2年女子 今野 沙紀 県中体連夏季大会3位

[団体]

武生高校男子剣道部 県高体連春季選手権大会3位

県高体連春季総体3位

連盟特別賞

[個人]

神山 4年以下男子 目黒 大士 第41回県錬成武生大会3位

王子保 5年男子 木越 琢巳 第41回県錬成武生大会3位

連盟特別賞

[個人]

王子保 男子 中村 拓未 第27回県錬成敦賀大会2位

国高 6年男子 吉羽 顕功 第42回県錬成武生大会2位

一中 全学年男子 堀端 海斗 県中体連夏季大会3位

国高 4年以下男子 山本 童夢 第42回県錬成武生大会3位

神山 4年以下女子 梅原 陽乃 第42回県錬成武生大会3位

一中 全学年男子 京藤 尚輝 第8回県中体連秋季新人大会3位

[団体]

王子保スポーツ少年団 第1回県少年育成大会3位

第36回全国スポーツ少年団交流大会県予選会3位

武生第二中学校男子剣道部 第8回県中体連秋季新人大会3位

<平成15年度>

連盟奨励賞

南	田中 貴光	辻尾 俊輔	
国高	板谷 和哉	川渕 達也	前田 浩司
神山	松本 和之	川上 椋太郎	坂下 晃太
吉野	村中 勇樹	永宮 督久	堀端 愛
王子保	吉羽 一将	山口 紗梨	下宮 絵梨
西	小木 達也	野村 泰弘	谷口 浩一郎
一中	吉田 侑生	松原 昌幹	
	森川 敦子	吉田 葵	橋本 美貴
二中	阪下 正義	林 雅人	
六中	山口 達哉		

<平成16年度>

連盟奨励賞

大虫	玉村 美樹	田中 美絵	
東	谷口 由樹		
南	保倉 勇太	土山 真司	内藤 晃子
国高	松原 功尚	山本 凌	河上 光浩
神山	大西 宏紀		
吉野	堀端 龍介	伊藤 岳史	橋 里帆
王子保	青木 翔亮	天野 裕晴	村田 一晟
西	新谷 隆太	辻 尚希	松井 聡
一中	加藤 駿介	内藤 洋	佐々木 瞳
	天谷 奈緒		
二中	奥山 登	橋本 平元	小木 一輝
	古川 美里		
三中	谷口 遼一	高橋 祐也	
六中	田野 勝也	内山 翔平	

<平成17年度>

連盟奨励賞

大虫	三田村 耕平	森川 奈津子	永宮 加代子
東	川瀬 進也		
南	笠島 陽介	中野 拳斗	内藤 朱音
国高	川渕 智貴	橋本 暁乃	木下 恭子
神山	渡辺 翔太	古村 茂高	増田 成美
吉野	堀内 紳行	吉田 将輝	宮脇 聖大
王子保	上山 達也	下宮 祐貴	林 宏樹
西	五十嵐 賢哉	中村 武大	杉本 健
一中	辻 宏之	野坂 優太	山本 華織
	三好 裕依		
二中	増田 陽行	田中 翔	竹内 俊晃
	岩崎 健太郎		
三中	児玉 峻	河村 脩平	
六中	山本 貴大	田野 勝也	林 加奈子
	下宮 絵梨奈		

<平成18年度>

連盟奨励賞

大虫	三好 愛		
南	林 拓哉	吉田 宗正	
国高	北畑 駿樹	中北 雅士	堂国 友史
神山	垣内 郁弥	古村 悟士	坂下 和也
吉野	水野 公義		
王子保	井上 純礼	酒井 鞠佳	林 宏樹
西	小木 裕生	佐々木 将紀	三室 建人
今立	角野 一樹	岸下 健太	
一中	前田 将崇	吉田 津與史	上田 直
	中村 美花		
二中	田中 貴光	辻尾 俊輔	
六中	井上 竜希	吉羽 一将	下宮 絵梨奈
	山口 紗梨		
池田中	宮本 隆司	飯田 直人	

<平成19年度>

連盟奨励賞

大虫	加藤 拓真		
南	坪川 翔	阪下 義仁	
国高	加藤 俊	吉田 彩野	谷 尚弥
神山	庭本 大輔	門口 大嗣	小原 侑大
吉野	京藤 啓佑	堀端 翔	毛利 友貴
王子保	若宮 莉彩子		
西	西森 英雄	大橋 祐也	宮本 龍之介
今立	岩尾 大成	小林 知可	
一中	宮越 穂健	橋本 諒	
二中	田中 康平	内藤 晃子	
三中	河上 光浩	山本 凌	
六中	村田 一晟		
池田中	山本 尚	清水 章弘	

<平成20年度>

連盟奨励賞

大虫	木村 茉希		
南	森岡 鴻介	笠島 尚史	添田 彩実
国高	鈴木 凌斗		
王子保	林 真美	山本 真大	
今立	角野 一樹	岸下 健太	蓑輪 朋哉
一中	中村 武大	渡邊 政仁	内藤 諒
二中	古村 茂高	渡辺 翔太	増田 成美
	奥山 ちさと		
池田中	清水 優仁	梅田 勇翔	

<平成21年度>

連盟奨励賞

大虫	笹木 詠介		
南	宮下 夏季		
国高	豊田 紘来	山腰 真大	中村 克己
神山	谷下 大貴	西出 穂高	庭本 裕貴
吉野	京藤 悠希	高田 航佑	古屋 廣澄
王子保	大竹 侑斗	神門 佑紀	
今立	角野 佑	小林 知可	蓑輪 朋哉
一中	大橋 祐也	青木 寛太	
二中	安井 公亮	城野 優生	
六中	若宮 莉彩子	小林 史夏	滝本 圭琳
池田中	有馬 尚史	山内 一樹	

<平成22年度>

連盟奨励賞

大虫	中川 健司	大久保 翔太	宮本 恒貴
南	石田 将大		
国高	吉田 溪介	井上 勇太郎	釜田 翔伍
神山	谷下 友基	門口 莉子	安井 梨乃
吉野	堀端 海斗	紘谷 銀児	
王子保	神門 佑紀		
今立	小林 知可	河井 雪美	
二中	庭本 大輔	川畑 拳吾	
六中	斎藤 拓泰	岩崎 雅人	
池田中	永原 卓弥	仲井 晴希	飯田 直倫

<平成23年度>

連盟奨励賞

大虫	木村 光一	田中 俊行	
南	道上 隼豊	笠島 渉	柴岡 健心
国高	正條 竣也	釜田 竜希	牧野 翔太
神山	篠山 順	大柳 翔太郎	
吉野	京藤 尚輝	紘谷 鉄平	
王子保	三田村 禎士	山下 優也	
今立	蓑輪 朋哉	河井 雪美	蓑輪 朱里
二中	北野 龍二	森岡 鴻介	宮下 将伍
	添田 彩実	鳥取 茉奈	
六中	三好 凌	谷口 貴俊	
池田中	江戸 直人	安達 一生	廣田 雄地
	分野 佳也		

<平成24年度>

連盟奨励賞

国高	妙珍 加奈	小形 花	
神山	渡邊 裕亮	谷下 尚弥	山本 龍一郎
王子保	神門 知宏	水上 敦貴	五十嵐 良羽
西	藤貫 晴香		
今立	小林 達明	河井 雪美	小林 工起
一中	京藤 悠希	後藤 匠	今野 沙紀
	永宮 ほのか		
六中	永坂 凌	吉水 周	橋本 奈央
	前田 優花		

<平成25年度>

連盟奨励賞

大虫	大久保 惣一	大久保 和真	宮本 健吾
国高	三村 修斗	金子 武司	
神山	仲野 伊織	西出 光里	目黒 巴子
吉野	白崎 海允	仲村 紘世	
王子保	中西 海斗	中村 拓未	
今立	小林 一心	井上 遥人	玉村 一心
一中	堀端 海斗	紘谷 銀児	
二中	佐々木 俊記	石田 将大	橋本 佑哉
六中	神門 佑紀	川口 芽	内藤 祐香
池田中	吉田 風汰	山品 知誉	山本 遥

10 物故者名目

(H26. 3. 31)

氏 名	役 職	生年月日	逝去時年齢
		逝去年月日	
北 野 堅	参 与	大正9年11月20日	82 歳
		平成15年9月26日	
倉 橋 幸 蔵	参 与	大正11年8月9日	82 歳
		平成17年2月14日	
宇 野 喜久二	参 与	昭和3年11月19日	77 歳
		平成18年2月 日	
是 広 昌 之	元理事長	大正15年6月10日	80 歳
		平成19年3月10日	
池 端 昭 夫	特別会員	昭和4年11月17日	78 歳
		平成20年4月17日	
石 黒 内 匠	元会長	大正13年9月16日	86 歳
		平成22年10月12日	
高 山 卓 三	参 与	大正13年10月20日	87 歳
		平成24年3月14日	
谷 口 正 儀	元副会長	大正12年1月9日	89 歳
		平成24年6月4日	
小 泉 宗 之	参 与	大正15年8月3日	85 歳
		平成24年7月9日	
佐々木庄一郎	元理事長	昭和4年9月21日	83 歳
		平成25年2月10日	

越前市剣道連盟規約

制定 平成18年4月29日

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本連盟は、越前市剣道連盟と称する。

(事務所)

第2条 本連盟は、事務所を越前市内に置く。

(組 織)

第3条 本連盟は、剣道および居合道の（以下「剣道等」という）愛好者をもって組織する。

(目 的)

第4条 本連盟は、剣道等の奨励発展と会員の健全な心身の涵養^{かんよう}を図るとともに、会員相互の親睦融和を目的とする。

(会 員)

第5条 本連盟の会員は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員
- (2) 特別会員
- (3) 準 会 員 但し、準会員は、所轄警察署員、市内の大学の学生（同市出身大学生を含む）および市内の小学校・中学校・高等学校の児童生徒とする。

(事 業)

第6条 本連盟は、目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 会員相互の技能向上を図るための指導および強化育成。
- (2) 諸剣道等大会および講習会等の開催並びに後援。
- (3) 剣道等に関する調査および研究。
- (4) 剣道等に関する功労者および優秀選手の表彰。
- (5) 少年剣道育成に関する事業。
- (6) 剣道等に関する広報および刊行物等の発行。
- (7) 剣道等の級位の審査会開催。
- (8) その他、本連盟において必要と認めた事業。

第2章 役 員

(役員の種類)

第7条 本連盟に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 若干名
- (3) 理 事 長 1名
- (4) 副理事長 若干名
- (5) 常任理事 5名（事務局長を含む）
- (6) 理 事 25名以内（地区別選出10名、会長推薦15名以内）
- (7) 監 事 2名

(選任および任期)

第8条 本連盟の役員を選出は、次のとおりとし、任期は二年とする。但し、再任は妨げない。

- (1) 会長および副会長は、総会において選任する。
- (2) 理事は、総会において選任する。但し、地区別選出理事にあつては、任期満了時の総会開催までに各地区において、あらかじめ理事を選出する。
- (3) 理事長、副理事長および常任理事は、理事の互選により選任する。
- (4) 監事は、総会において選出し、他の役員^の兼任を認めない。
- (5) 役員がその任期中に改選する場合、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。なお、役員は次の役員が決定するまで、その職務を遂行しなければならない。

(役員の仕事)

第 9 条 本連盟の役員の仕事は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本連盟を代表し、これを統轄する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはそれを代理する。
- (3) 理事長は、理事会を代表し、会務の実施にあたる。
- (4) 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときはそれを代理する。
- (5) 常任理事は、会務の実施にあたる。
- (6) 理事は、理事会を構成し、会務の執行を決定する。なお、地区選出理事にあつては、地区内会員の総括にあたる。
- (7) 監事は、本連盟の事業の会計、その他会務を監査する。

(事務局)

第 10 条 本連盟の事務を処理するために、事務局を置く。

- 2 事務局には、事務局長および事務局次長並びに事務局員を置く。
- 3 事務局長、事務局次長および事務局員は、会長が任免する。

(顧問、相談役および参加)

第 11 条 本連盟に顧問、相談役および参加を置くことができる。

- 2 顧問、相談役および参加は、会長が理事会の承認を経て総会に諮り委嘱する。
- 3 顧問、相談役および参加は、重要な会務につき会長の諮問に応じ、総会または理事会に出席して、意見を述べることができる。

(審議会)

第 12 条 本連盟に十名以内の審議員を置く。任期は二年とし、再任は妨げない。

- 2 審議員は、会長が総会に諮って委嘱する。
- 3 審議員は、審議会を構成し、別に定めるところにより、審議会の会務の執行を決定する。
- 4 審議会に審議会長および副審議会長を置き、審議員の互選によりこれを定める。
- 5 審議会長は、審議会の会務を主宰する。
- 6 副審議会長は、審議会長を補佐して会務を統轄し、審議会長に事故あるときは職務を代理し、審議会長が欠員のときは、その職務を行う。
- 7 審議会で審議した内容を会長に報告し了承を得ることとする。特に審議会長が必要と認めたときには、会長の意見を聞くことができる。

(専門委員)

第 13 条 本連盟の目的および事業遂行のため、必要あるときは専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会の組織および運営に関する規則は、理事会の議決を経て別に定める。

第 3 章 会 議

(種 別)

第 14 条 本連盟の議決機関を次のとおりとする。

- (1) 総会
- (2) 理事会

(機 能)

第 15 条 総会に付議する事項は、次のとおりとする。

- (1) 規約の改正
 - (2) 予算および決算
 - (3) 事業計画および事業報告
 - (4) 役員を選出
 - (5) 上部団体への加入脱退
 - (6) その他重要事項
- 2 理事会の会務は、次のとおりとする。
- (1) 理事会は、会長・副会長および理事をもって構成し、理事長が議長となる。
 - (2) 理事会は、総会の議決に基づき、企画・立案・実施および緊急事項の議決にあたる。

(招 集)

第16条 総会は、毎年1回会長が招集する。

2 理事会は、理事長が必要と認めた場合、これを招集する。

(議 決)

第17条 議事の決議は、出席構成員の過半数の同意をもって決定する。但し、規約第15条第1項第1号を除く。なお、可否同数のときは、議長の決定するところによる。

第4章 加入および脱退

(加入および脱退)

第18条 本連盟への加入および脱退については、理事会の承認を要する。

第5章 権利および義務

(権利および義務)

第19条 本連盟の加入者は、次の権利、義務を持つものとする。

(1) 所定の手続きを経て、本連盟の諸施設を利用することができる。

(2) 剣道連盟主催の大会等に、出場することができる。

(3) 規約に基づいて役員の選挙権および被選挙権を持つ。

(4) 入会を希望する者は、入会金および会費を連盟に納入しなければならない。

(5) 本連盟の各事業・行事に積極的に参画しなければならない。

第6章 会 計

(運営費等の構成)

第20条 本連盟の経費は、会費、補助金、寄付金、審査料、入会金およびその他をもって充てる。なお、会費および入会金について、改定等を必要な場合は、総会に諮り議決を経て決定するものとする。

(会計年度)

第21条 本連盟の会計年度は、毎年4月1日から、翌年3月31日までとする。

第7章 雑 則

(規約改正)

第22条 規約第15条第1項第1号の規約改正を行う場合は、理事会の議決を経て、総会出席者の3分の2以上の承認を得なければならない。

(規約の施行)

第23条 この規約の施行に関し必要な事項は、理事会の議決を経て会長がこれを決定する。

(慶弔等)

第24条 会員および会員の家族に慶弔あるときは、「慶弔規定」により意を表する。

(表彰等)

第25条 剣道に関する表彰等については、「越前市剣道連盟表彰規定」により敬意を表する。

(会費等)

第26条 会費等については、別表1のとおりとする。

附 則

平成20年5月18日 一部改定

あ と が き

創立60周年記念事業の一環として、「越前市剣道連盟創立60周年を迎えて 平成15年度～平成25年度の歩み」を発行することになりました。

編集では「武生市剣道連盟 50年史」の編集趣旨を踏まえ、当初ダイジェスト版形式で作成した10年間の主な出来事等の変遷を再度見直し、構成や内容等を精査しながらの作業を幾度となく繰り返し、連盟の活動記録等の足跡を「冊子」としてまとめました。

会員の皆様には、今現在も積極的に活動し息づいている「証」を、時には本冊子を紐解きながら活用していただき、次のステップへと更なる新しい発見・躍進に繋がれば幸いです。また、市剣連においては、今後、記憶や記録が風化しないよう10年毎に、このようなものが継続的に作成されていくことを望むところです。

なお、貴重な資料を提供、原稿執筆・聞き取り調査等に快く応じて下さった、清水哲雄、金嶋八郎両先生、県剣連・市剣連の諸先生方に厚くお礼申し上げます。また、編集・校正作業にあっては、山田会長、尾形副会長、大嶋理事長はじめ編集委員の関係各位には大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、玉村副委員長、倉橋副委員長には、「50年史」編集経験者として打合せ等に何週にも亘り出席いただき、作業の原動力として最後まで熱心に取り組んでいただいたこと、さらに堂前委員には、作業場所の提供として武生スポーツ店を毎週のようにお借りし、編集時における多方面からの心配りをいただき、今回の発行に至りました。数々のご協力に対し心から感謝する次第であり重ねて厚くお礼申し上げます。

最後になりますが、内容を精査するあまり発行が大変遅れましたこと、この紙面をお借りして、会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

編集委員会 委員長 宮川保則
副委員長 玉村伸治 倉橋良滋
委 員 堂前光夫 楠 宏彰 上野吉弘
岸下俊宏 森岡裕一 和田克枝

越前市剣道連盟創立60周年を迎えて 平成15年度～平成25年度の歩み

発行日 平成27年3月1日

発 行 越前市剣道連盟

事務局

〒915-0803 福井県越前市平出2丁目3-9
(武生スポーツ店内)

TEL. 0778-22-1829